平成 22 年度・文部科学省委託事業

「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究

報　告　書

平成 23 年 3 月

岩手県社会教育推進協議会

目　　次

Ⅰ　研究の概要

1　研究目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
2　研究の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　研究内容

1　花巻市・北上市、中部教育事務所の現状について　・・・・・・・・　2
(1)　花巻市の生涯学習施策について　・・・・・・・・・・・・・・・・　2
(2)　北上市の生涯学習施策について　・・・・・・・・・・・・・・・・　3
(3)　中部教育事務所について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
2　国庫委託事業「『社会教育による地域の教育力強化プロジェクト』における実証的共同研究」事業の概要について・・・・・・・・・・　4
(1)　事業概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
(2)　事業委託の経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
3　実証的共同研究について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
(1) 岩手県社会教育推進協議会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
(2) 花巻実証的共同研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
(3) 北上実証的共同研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29

Ⅲ　実証的共同研究のまとめ

1　花巻市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　42
2　北上市　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　43

Ⅰ　研究の概要

1　研究目的

県・市町村・NPO等が共同してモデル的・実験的な事業を展開し、「仕組みづくり」を進める過程を通して、社会教育による「生涯学習振興行政」の在り方や、「新しい公共」の可能性について提案周知することを目的に、社会教育による地域実証的共同研究に取り組む。

平成18年度から北上市内公民館が「地区交流センター」に、平成19年度から花巻市内公民館が「振興センター」となり、両市とも地域住民や民間（ＮＰＯ）等と連携し、特徴的に生涯学習事業を展開している。ただし、花巻市では組織改正中であることや、両市とも、地域住民の住民力の向上等の課題がある。そこで、本実証的共同研究において、両市それぞれに、モデル的・実験的事業に取り組み、その成果を検証しようとするものである。

2　研究の概要

上記研究目的を達成するため、両市において以下の内容で実証的共同研究に取り組む。

（１）花巻市

花巻市においては「効果的ネットワーク化の推進」をテーマとして『花巻SAI発見プロジェクト事業』に取り組み、振興センターを中心に、地域住民で組織する「地域コミュニティ会議」や関係機関・団体とのネットワークを構築する。ネットワーク構築の手法として、４つの社会教育モデル事業に旧４市町単位で取り組み、モデル社会教育事業の企画・運営に共同で取り組むなど、ネットワークの効果的活用による新たな社会教育事業の展開をモデル的に図る。またフォーラム等を開催し、モデル的に実施した事業成果を共有することで、各振興センター間や各地域コミュニティ会議などの新たなネットワークの構築を図る。

（２）北上市

北上市では、民間（NPO）やと連携し「北上まちなか博物館」事業を実践する過程で、新たな人材の発掘に取り組み、協働して事業展開を進めるなかで市民リーダーの活躍を推進し、市民リーダーの育成を図るとともに、フォーラム等を実施し広く市民に周知することで新たな市民の参画を促進する。

Ⅱ　研究内容

1　花巻市・北上市、中部教育事務所の現状について

（1）花巻市の生涯学習施策について

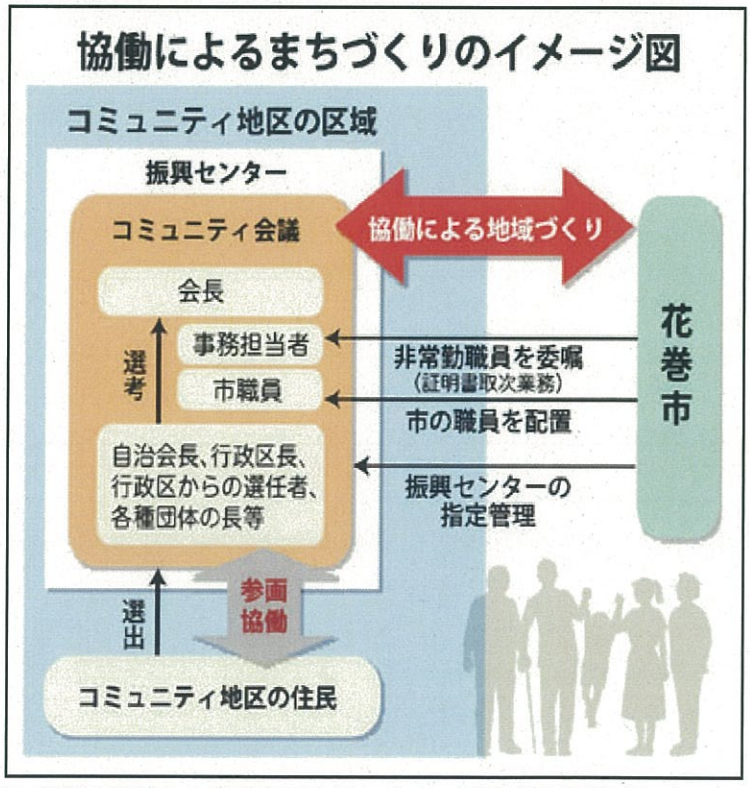
平成19年４月「小さな市役所構想」に基づき、花巻市では生涯学習事業を従来の教育委員会部局から市長部局へ移管した。併せて、生涯学習振興課も市長部局に移管し、地区公民館の大部分を「振興センター」として位置付けることした。市内26ヶ所の振興センター（現在27ヶ所）では、地域づくり支援員として２名の市職員が常勤し　①地域づくり支援　②生涯学習活動の拠点　③市役所窓口業務を行っている。また、合併前の旧市町単位に「総合支所」を設け、それぞれに生涯学習担当を置き、これまでの生涯学習事業の大幅な変更や体制の後退とならないようにした。また教育委員会でも「教育振興運動」「家庭教育」については残すこととし、これまで以上に市長部局と連携に努めている。

各振興センターの単位の地域住民で「地域コミュニティ会議」を組織し、自治活動を推進するとともに、市から「住民による自主的な地域づくり活動の推進及び身近な地域課題の解決を図るための事業に要する経費」として交付金が（均等割額、世帯割額及び面積割額）配分され、その使途について「地域コミュニティ会議」独自で経理し、目的に応じて生涯学習事業にも活用されている。

各振興センターの生涯学習事業については、市から派遣された職員が中心となって様々な生涯学習事業を進めているが「地域コミュニティ会議」においても、それぞれ「地域ビジョン」策定に向けてた取り組みがなされたり、「教育部会」など組織内に「部会」を設け、部会毎に独自の生涯学習事業を展開しているところもある。

また、旧町単位で設置された「総合支所」においても、旧中央公民館事業を引き継ぎ、「高齢者学級」等様々な生涯学習事業が展開されている。

現在（平成22年度）は、振興センターは「まちづくり部地域づくり課」が管轄し、センター職員の研修や連絡調整等は、生涯学園都市会館（通称まなび学園）が所管している。現体制になって４年経過し、平成23年度からは振興センターの管理運営を地域コミュニティ会議を指定管理者として委託すること。また、派遣市職員も２名から１名とする方向で、現在調整中である。



※　花巻市協働によるまちづくりのイメージ図（平成23年度～）

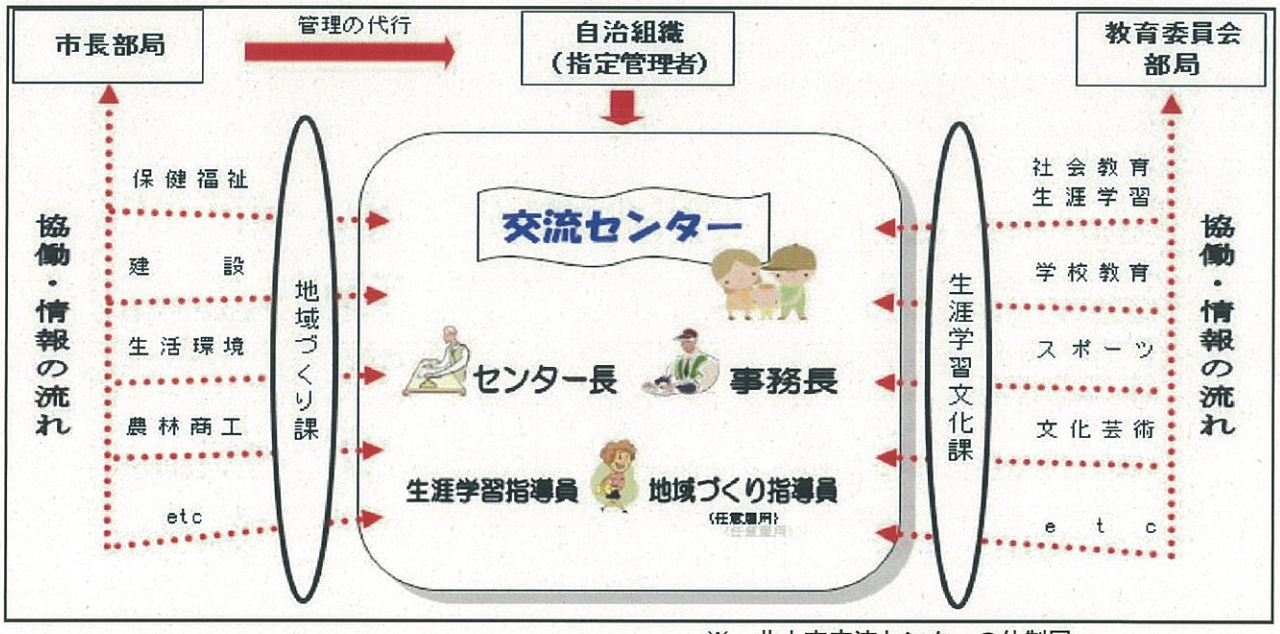
（２）北上市の生涯学習施策について

平成15年度に、市の行財政改革緊急プログラムの一つとして、地区公民館の地域による管理運営化が示され、平成18年度から市立公民館16館を「交流センター」とし、地域の自治組織が指定管理者となった。

地域住民の主体的な学びや、地域づくり活動の拠点となるような「コミュニティ施設」を目指すし、施設管理は教育委員会から市長部局に移管した。市からの交付金（各交流センター定額）により、従来の生涯学習事業に加え、地域づくり事業を実施。指定管理を受けた地域の自治組織が交流センター職員（センター長、事務長、生涯学習指導員、地域づくり指導員）を雇用し、それぞれ独自に生涯学習事業を展開している。

教育委員会生涯学習文化課では、各交流センター職員研修や、生涯学習事業のとりまとめを行っている。また「北上市生涯学習センター」（おでんせプラザぐろーぶ３階）を運営し、北上市の中央公民館としての役割を担い、北上市全域を対象とした各生涯学習事業を展開している。

また「北上市生涯学習センター」内では、民間の様々な生涯学習機関や団体が活動を積極的に展開している。なかでも「市民活動団体交流ルーム」や「団体活動室」では多様な民間団体（ＮＰＯ）が自主活動を行い、生涯学習に関する多様な事業を市民の目線で行っている。



※　北上市交流センターの体制図

（３）中部教育事務所について

平成22年度に、県の広域振興局体制への移行に併せ、「花巻教育事務所」と「北上教育事務所」が統合され「中部教育事務所」となった。管内４市町（花巻市、北上市、遠野市、西和賀町）を管轄し、広範囲となったこともあり、現在は社会教育主事２名体制である。

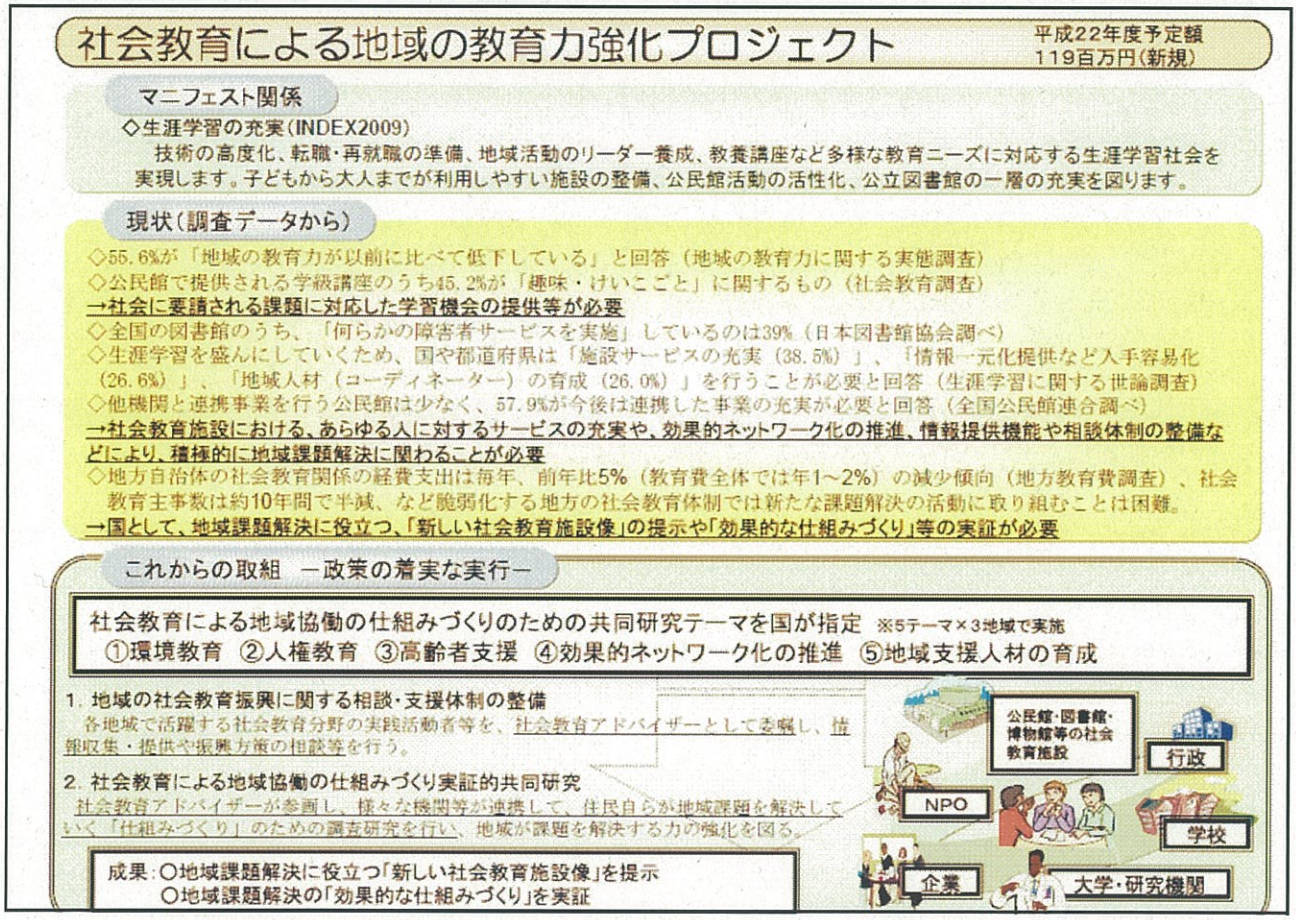
花巻市・北上市について、前述の通り県内でも特徴的な生涯学習施策を展開していることもあり、連絡を密に取りながら、生涯学習関係職員や関係機関・団体との関係づくりに務め、管内の生涯学習推進に向けてて取り組んでいる。ただし、県事業費の縮減や国庫委託・補助事業の廃止縮減に伴い、各市町と連動した有効な生涯学習事業を推進してるとはいい難い現状であった。

2　国庫委託事業「『社会教育による地域の教育力強化プロジェクト』における実証的共同研究」事業の概要について

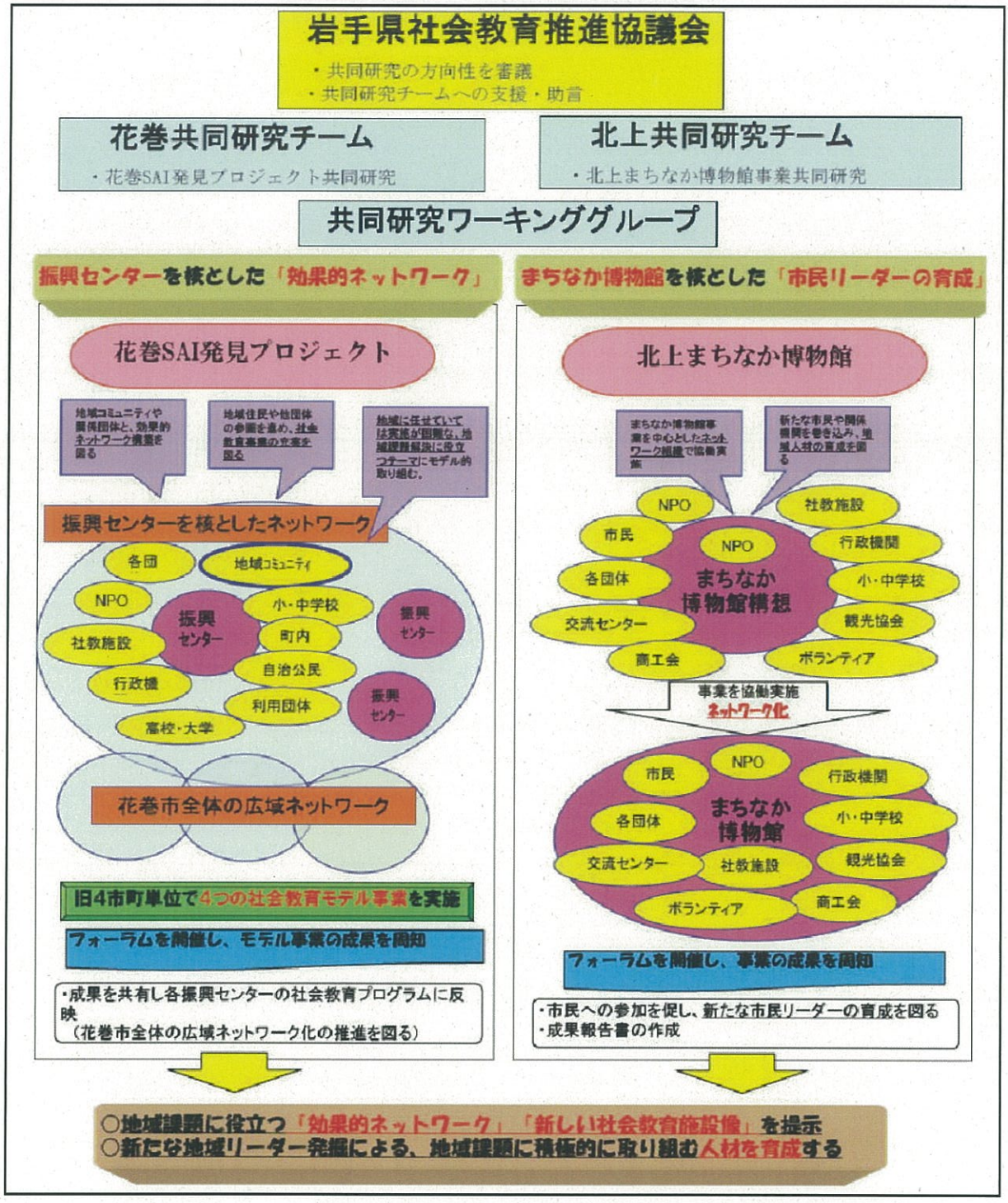
（１）事業概要

事業要旨としては「社会に要請される課題の解決に積極的に関わる『新しい社会教育施設象』を示すとともに、地域社会のそれぞれの実情に合わせて、住民が主体的に考え、地域の課題を認識し、協働して解決していくことを促す『仕組みづくり』を進めることが必要である。このため、地域に任せていては実施されない恐れがあるテーマを指定し、地域の課題解決に役立つしくみづくりのための実証的共同研究を行う」（一部要約）と提示された。

県生涯学習文化課より、県社会教育関係職員や市町村担当者へ事業概要が周知され、様々な提案や問い合わせがあった。ただし新規事業であることや、具体的な要綱や事業計画が文科省から提示されないままであったことから、事業委託に向けてた具体的な動きを行った市町村はなく、県社会教育関係職員が幾つかの具体的な提案を行ったのみであった。当事務所においては、旧花巻教育事務所から、花巻市振興センターの職員研修と行政と地域が連携したしくみづくりに取り組む「花巻SAI発見プロジェクト」。旧北上教育事務所から、まちづくり推進体制の整備に係る地域支援人材の育成にＮＰＯと協働して取り組む「まちなか博物館によるまちづくり」がそれぞれ提案された。



※　（地域の教育力強化プロジェクト）PP説明資料（ポンチ絵）



※　平成23年度　岩手県社会教育推進協議会具体的研究体系図

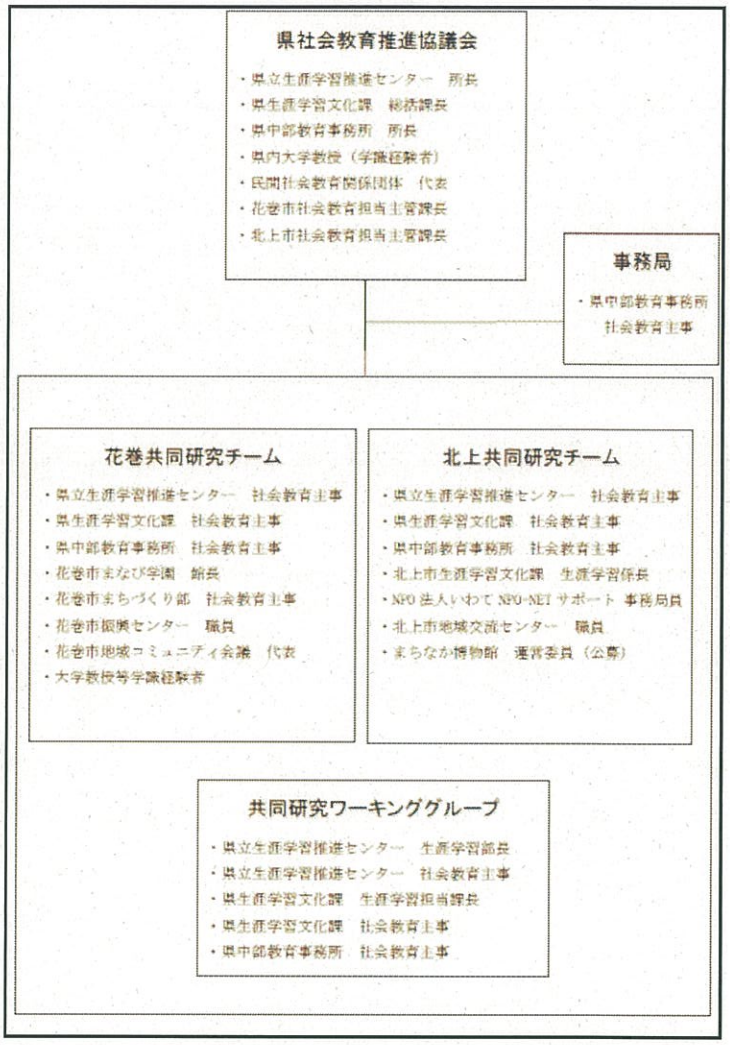
（２）事業委託の経過

平成23年度本県において「全国生涯学習フォーラム」（仮称）を開催予定ということもあり、本事業を有効活用することで県内の生涯学習を活性化させたいこと。旧花巻北上両事務所から提案があった事業が、首長部局が主管する生涯学習施設の活性化や、新たな人材発掘を目指すしＮＰＯ等と連携して取り組むことなど「新しい仕組みづくり」が期待できるということ等の理由から、本事業について、県生涯学習文化課と県立生涯学習推進センター、中部教育事務所が中心となり推進していくこととした。また、平成21年度中には、関係両市や団体との連絡調整も行った。

平成22年４月16日付けで文科省から「『社会教育による地域の教育力強化プロジェクト』における実証的共同研究」について企画競争を前提とする公募が出された。関係機関と調整のうえ、「企画申請書及び経費計画書」（案）を中部教育事務所において作成し、５月に県立生涯学習推進センターにおいて検討会を実施した。

本事業を受託するに当たり新たな団体として「岩手県社会教育推進協議会」を立ち上げること。組織として県立生涯学習推進センター所長が協議会長を務め、中部教育事務所が事務局を担当すること。県実行員会等の組織や研究日程等を検討し、５月12日付けで各申請書類を文科省に提出した。

文科省から、６月25日付け採択の内示（契約日７月１日）を受け、協議会の組織化や詳細な事業概要について検討をさらに重ね、次項からの実証的共同研究に取り組むこととした。



※　平成23年度　岩手県社会教育推進協議会組織図

3　実証的共同研究について

（1）岩手県社会教育推進協議会

国庫委託事業を受諾するに当たり、本実証的共同研究を推進する母体として協議会を設置し、研究方向性の確認や内容の審議・検討をする機関として位置付けた。協議会として年２回の会議を実施することとし、委員の名簿は表１の通りである。また、監事として県生涯学習文化課並びに県生涯学習推進センター社教主事、事務局として中部教育事務所社会教育主事２名が会議に加わることとした。

No.	役割等	氏　名	所　属	職　名
1	協議会長	佐々木　哲　也	岩手県立生涯学習推進センター	所 長
2	副会長	錦　　泰　司	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課	総括課長
3	副会長	漆　原　一　三	中部教育事務所	所 長
4	委　員	新　妻　二　男	岩手大学教育学部	教 授
5	委　員	高　橋　　寛	岩手県生涯学習振興協会	会 長
6	委　員	伊　藤　盛　幸	花巻市まちづくり部地域づくり課	課 長
7	委　員	高　橋　悦　子	北上市教育委員会生涯学習文化課	課 長

表１　平成22年度岩手県社会教育推進協議会委員名簿

７月27日（火）第１回推進協議会を県立生涯学習推進センターにおいて、以下の次第にて実施した。

【第１回推進協議会次第】

１　開　会

２　挨　拶

協議会長（県立生涯学習推進センター所長）　佐々木　哲也

３　委員紹介

４　共同研究の概要説明（事務局）

（１）平成22年度国庫委託事業「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」実証的共同研究の概要について

（２）岩手県社会教育推進協議会の事業計画について

（３）「花巻SAI発見プロジェクト」「北上まちなか博物館」事業計画について

（４）その他

５　協　議

（１）平成22年度国庫委託事業「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」実証的共同研究事業について

（２）岩手県社会教育推進協議会の事業計画について

（３）「花巻SAI発見プロジェクト」「北上まちなか博物館」事業計画について

（４）その他

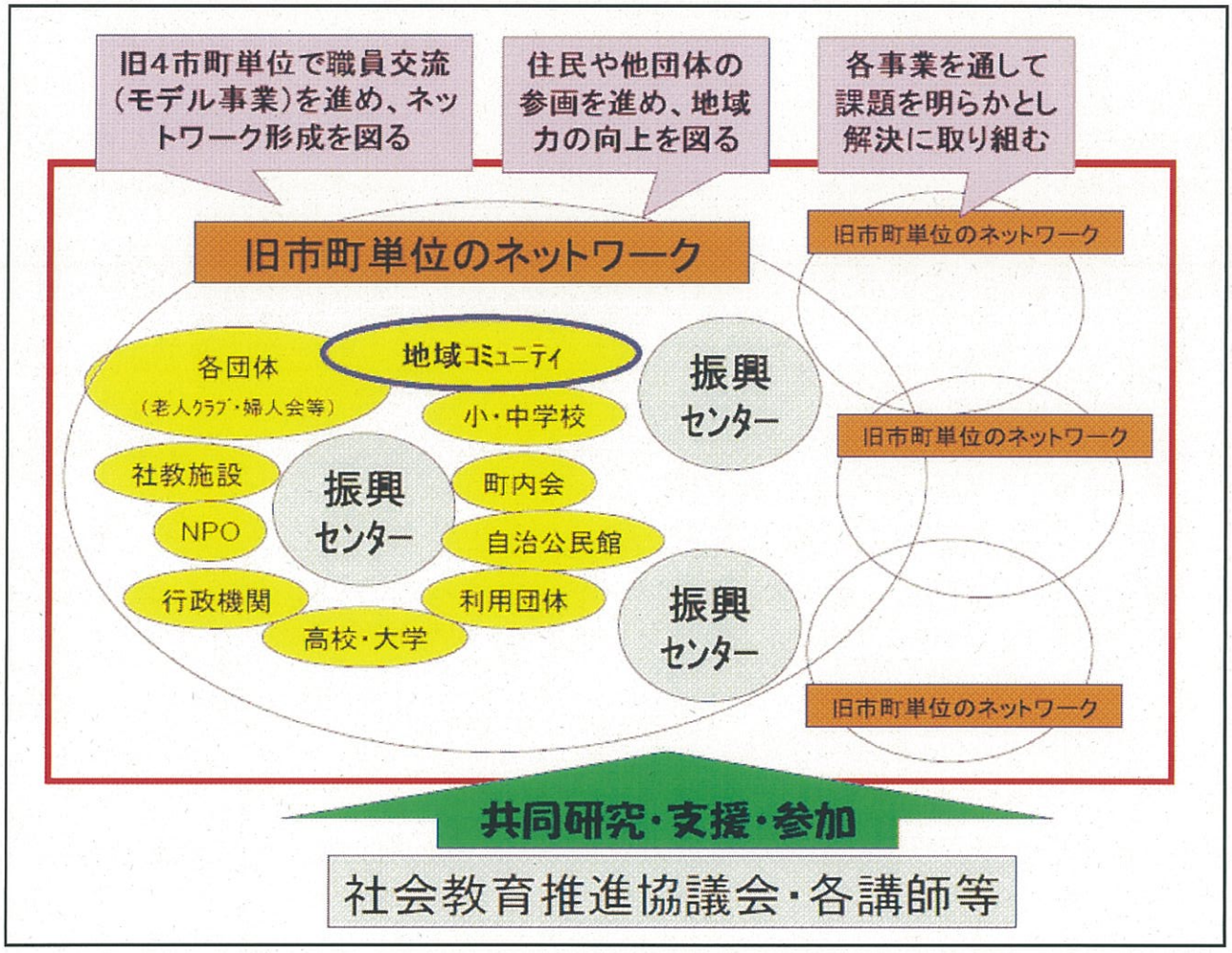
６　その他

７　閉　会

（２）花巻実証的共同研究

ア　実証的共同研究の概略

花巻において実証的共同研究を推進するに当たり、研究テーマを「振興センターを核とした効果的ネットワーク」の構築と設定し、以下のモデル図に基づいて推進することとした。



花巻市は平成18年１月に４市町（花巻市・大迫町・石鳥谷町・東和町）が合併した。合併から平成19年４月までは、教育委員会が各公民館を主管し、中央公民館としての役割を果たしてきた旧町もあるなど、公民館が生涯学習の拠点施設としての役割を担っていた。平成19年度以降は首長部局が振興センターを直轄管理し、生涯学習を進めていたが、旧町単位でのつながりが薄くなり、それぞれの職員の連携が薄れ、単独センターでの事業開催か、旧市町単位の「花巻生涯学園都市会館」「石鳥谷生涯学習会館」「大迫・東和総合支所」でそれぞれに生涯学習事業を展開してきた。

よって、本実証的共同研究を進めるに当たり、「振興センターを核とするネットワーク」を構築する事業を、「振興センター」を取り巻く地域の様々な関係団体や機関と共同して事業を進め、その成果を共有することで、地域の支援体制が構築され、今後の生涯学習事業が推進すると考えられる。また、旧４市町単位でモデル事業を実施することで、旧４市町単位の「振興センター職員間のネットワーク化」も進むことが予想され、職員間連携が進み、これからの生涯学習事業を推進する際の原動力となる。

また、本事業で「モデル的」な事業を実施することで、普段取り組むことができないような「社会教育事業」に取り組むことが可能となり、様々な事業が実験的に行うことができると考えられる。さらに、その事業を企画するに当たり、旧４市町単位の振興センター職員が共同で取り組むことにより、ネットワーク化の推進のみならず、企画力の向上や多様なアイディアの共有にもつながる。

以上のことを有効に推進していくために、本実証的共同研究を進めるに当たり、県としての役割、市地域づくり課としての役割、旧町単位にある総合支所の役割、振興センター職員としての役割、地域の関係団体・機関の役割を、「共同研究チーム会議」や「合同研修会」「モデル事業」等の実施において明らかとしながら、進めることが肝要である。

また、本研究を進めに当たり、外部からの目で支援・助言いただく講師を依頼し、年間を通して関わってもらうことで、個々の事業の支援だけでなく本調査研究の総合的な助言を受けることができると考え、参画はぐくみ工房主催竹迫和代氏と計画技術研究所の岡村竹史氏の両名に依頼し、指導・助言いただくこととした。

イ　共同研究チーム

（ア）共同研究チームの概要

花巻市で共同研究を進めるに当たり、その方向性の確認と詳細な計画を作成するために「共同研究チーム」による会議において協議することとした。チームのメンバーについては以下の通り委嘱した。

No.	氏　名	所　属	職　名等
1	竹　迫　和　代	参画はぐくみ工房	代　表
2	岡　村　竹　史	計画技術研究所	ファシリテーター
3	坂　井　守　久	花巻市まちづくり部地域づくり課	生涯学園都市会館館長兼 生涯学習文化係長
4	新　田　正　幸	花巻市まちづくり部地域づくり課	主　任
5	菊　池　剛　史	花巻市まちづくり部地域づくり課	副主任兼社会教育主事
6	鎌　田　悠　里	花巻市まちづくり部地域づくり課	主　事
7	佐々木　　昭	花巻市まちづくり部地域づくり課	社会教育指導員
8	佐　藤　正　眞	花巻中央振興センター	所　長
9	畠　山　英　俊	花北振興センター	主　任
10	高　橋　一　雄	大迫振興センター	主　査
11	大　竹　誠　治	好地振興センター	上席主任
12	石　川　裕　朗	小山田振興センター	副主任
13	菅　原　真　司	岩手県立生涯学習推進センター	社会教育主事
14	佐々木　　勉	中部教育事務所	主任社会教育主事
15	菊　池　一　洋	中部教育事務所	社会教育主事

当初、地域コミュニティ会議等の地域団体の役員等も共同研究チームメンバーとして考えたが、花巻市と検討のうえ上記のメンバーとしてスタートすることとした。講師の竹迫氏と岡村氏も、当初から加わってもらうこととし、第１回共同研究チーム会議のプログラ

ム作成並びにファシリテートも依頼した。

(イ)第１回共同研究チーム会議

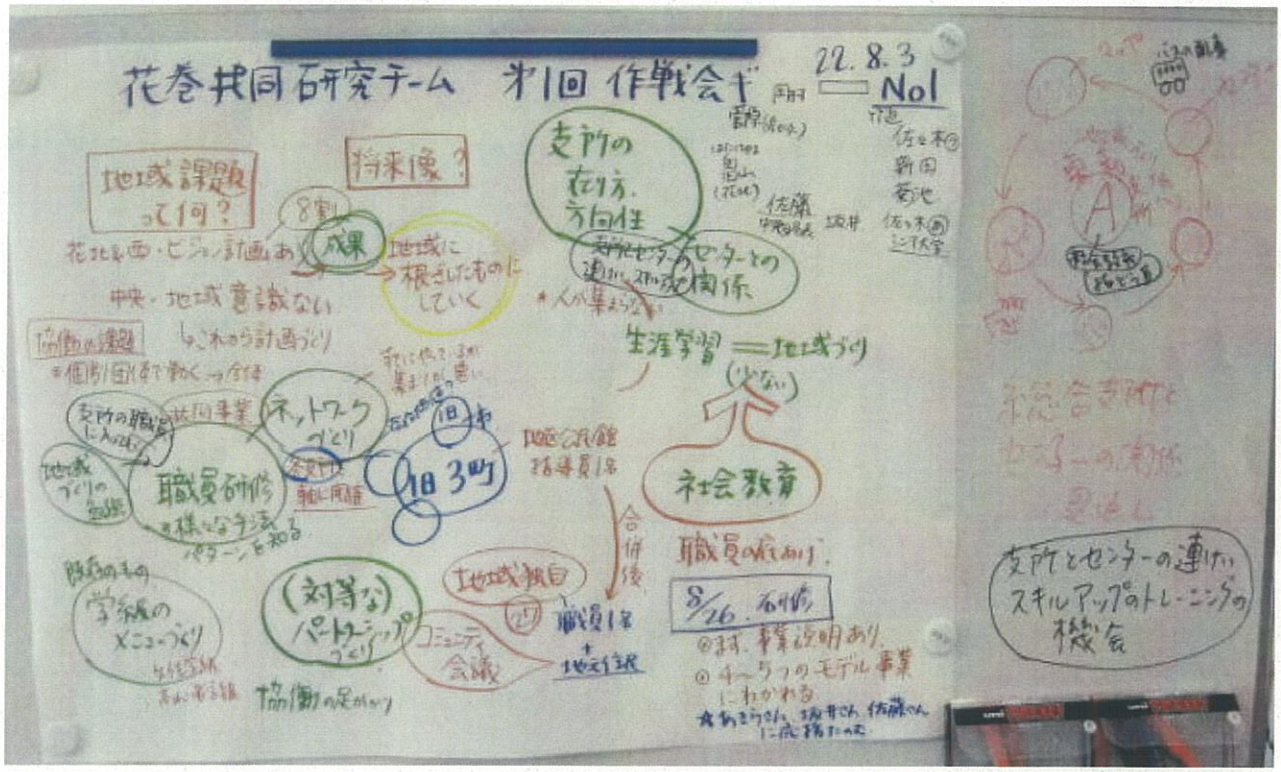
第１回会議を実施するに当たり、講師から現状を把握するためにアンケートを実施するべきとの助言もあり、振興センター職員にアンケートを実施し、花巻市で取りまとめ、会議当日の資料とした。第１回会議は以下のプログラムで行った。

[目的]★今年度の事業概要の理解と、各センターや花巻市が抱える課題や将来像の共有を図る
[流れ]
13：30　オープニングタイム
・講師紹介（竹迫、岡村）
・参加者自己紹介
13：45
・事務局から（本事業の概要について　佐々木）
・これからやろうとしている事業のお話（市担当）
14：00　意見交換（その１）
・振興センターや花巻市の現状と課題についてフリートーク
14：40　意見交換（その２）
・本事業について、質問・疑問・提案などなどフリートーク
★意見交換の内容は竹迫が模造紙にかきとめていきます
★初回ですので、日頃の業務で抱えている課題やこんなことやりたいという希望を大いに話してください
★適宜、トイレタイムはとっていきます
15：40　クロージングタイム
・事業成功のイメージを描いてみましょう→実際の評価軸として検討
・言い残したことはありませんか？
・今後に向けてての連絡　他
16：00　終了

参画はぐくみ工房　代表　竹迫和代氏　作成

当日は10名の参加であった。竹迫氏のファシリテートにより、本事業の概要についての説明の後、意見交換では①協働の課題、地域住民とのパートナーシップについて②職員間のネットワークについて③花巻市の生涯学習と社会教育の現状と課題について④生涯学習事業の在り方について⑤本プロジェクトのモデルプログラムの在り方と導入の方策について⑥今後の流れについて等の意見交換がなされた。当初は、本事業について懐疑的な意見もあったが、話し合いを進める中で、花巻の生涯学習を推進していくために有効な機会となり得るとの意見が大勢を占め、様々なアイディアや前向きな意見が多く出された。

話し合いの概要については竹迫氏が「ファシリテーショングラフィック」の手法で、模造紙にまとめることにより、話し合いの経過が一望でき、その後の各事業内容を検討する際にも参考資料として有意義なものであった。



8月3日ファシリテーショングラフィック　竹迫和代氏　作成

今後の進め方については、以下のことが確認された。①振興センター職員研修の実施（振興センターを核とするのだから、振興センター職員がまず事業理解をすること）②モデル事業は旧4市町単位として実施するのがよいか。テーマを決めて手上げ方式がいいか要検討課題③モデル事業担当の一部の振興センターのみが担当するのではなく、全振興センター職員が関わるような工夫を検討する④共同研究チーム委員については引き続き各モデル事業の支援を行うこと。

また、両講師は次の日に、現場の声を聞き、実態をより明確に把握することを目的に、以下の主要な振興センターや総合支所等を訪問した。

（８月４日講師訪問先並びに対応職員）

・湯口振興センター　対応者　局長代理　越後　晃一
　振興センターとコミュニティ会議の概要、ふるさとマップの活用法等
・石鳥谷生涯学習会館　対応者　副主任　伊藤　純子
　石鳥谷地区の振興センターの概要、総合支所の現状と課題
・好地振興センター　対応者　局長代理　菅原　善幸
　振興センターとコミュニティ会議の概要、石鳥谷マップの作成について等
・外川目振興センター　対応者　局長　佐藤　富次男
　振興センターとコミュニティ会議の概要、梅の里構想事業について等
・成島振興センター　対応者　局長　川村　勝夫
　振興センターとコミュニティ会議の概要、毘沙門の里づくり構想等

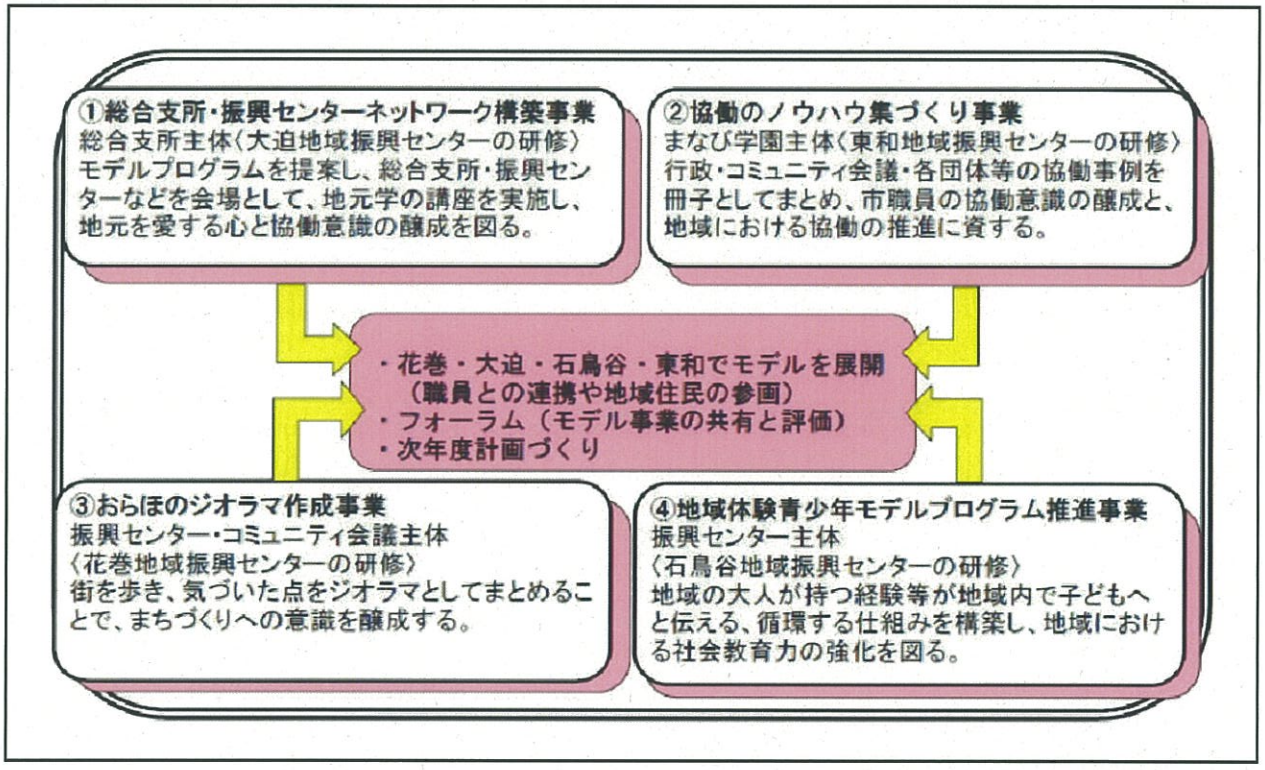
ウ　振興センター職員等全体研修会

（ア）職員等全体研修会の概要

花巻市で共同研究を進めるに当たり、共同研究チームで確認された実証的共同研究について、振興センター職員に事業内容を理解してもらい、共同体制を構築していくために振興センター職員を主な対象とした全体件研修会を行うこととした。また、事業後半においては、次年度以降の振興センター等で実施する生涯学習事業の在り方や事業プログラムについて、振興センター職員並びに地域住民で組織する地域コミュニティ会議のメンバーを対象に研修会を実施し、モデル事業の成果を共有することで次年度以降の生涯学習事業を活性化させたいと考え、職員全体研修会を企画した。

（イ）第１回職員等全体研修会の概要

共同研究チーム会議後の講師現地視察後の意見をもとに、花巻市と本事務局で検討を進め「モデル事業は振興センターからの要望を主体としながらも、旧4市町単位で４モデルを実施」するこおとした。４モデルの案として①総合支所・振興センターネットワーク構築事業（大迫）②協働のノウハウ集づくり事業（東和）③おらほのジオラマ作成事業（花巻）④地域体験青少年プログラム事業（石鳥谷）を案として立ち上げ、第１回の職員全体研修会で検討することとした。



プロジェクト実施の果実（一部抜粋）花巻市　菊池　剛史　氏　作成

研修会のプログラムは以下の通りである。講師は引き続き竹迫氏と岡村氏に依頼するとともに共同研究チーム委員には、モデルプログラムの作戦会議をグループ毎に実施する際の助言者として位置付けた。

第１回職員等全体研修会　次第

１　オープニングタイム

「旗揚げアンケート」※５色の旗を揚げて全員が意思表示

Ｑ　あなたと地域住民との関係は？　このプロジェクトへの期待度は？　など

２　モデルプログラムの紹介

大迫チーム「総合支所・振興センターのネットワーク構築事業」

東和チーム「特色ある地域づくり事例集作成事業」

花巻チーム「地域ビジョン作成事業」

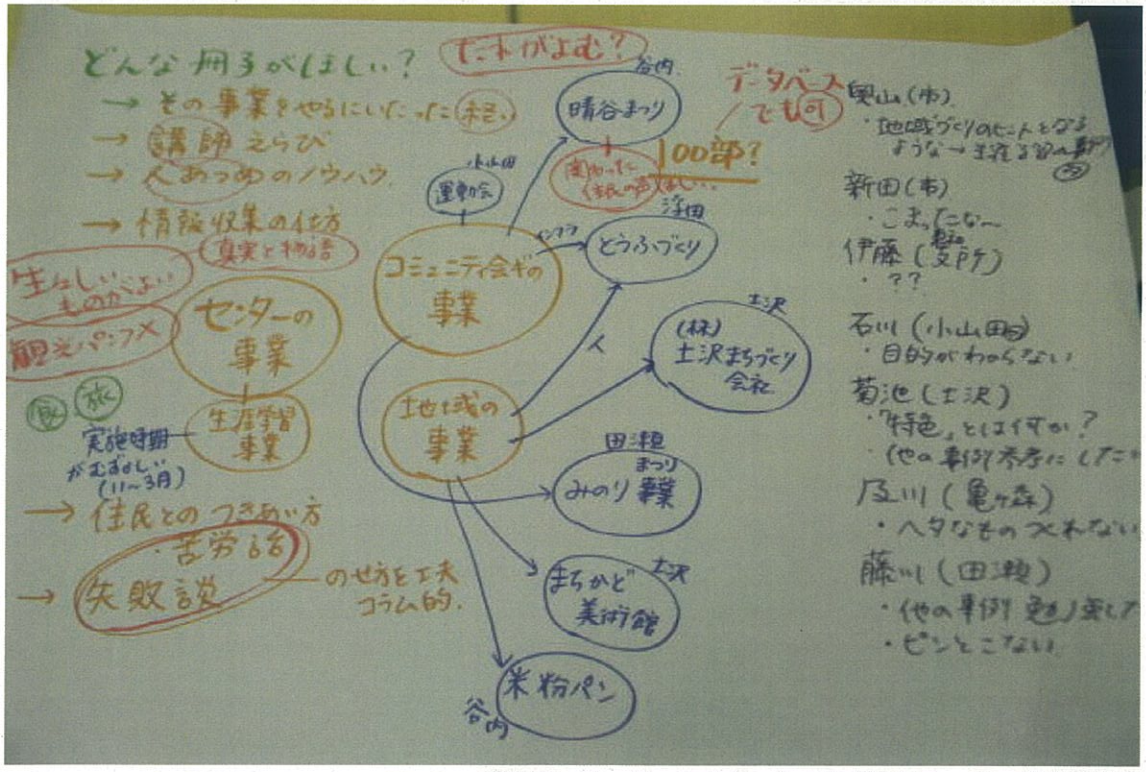
石鳥谷チーム「地域体験青少年モデルプログラム推進事業」

３　モデルプログラムの作戦会議

各チーム毎で

４　共有（発表）＆つっこみタイム

モデルプログラムについての説明の後、各チームに分かれて検討を行った。チーム内では当初「事業趣旨は理解できるが、他用務もあるので困難だ」「事業の必然性が理解できない」等の意見もチーム内で多数でたが、協議を進める中で共同研究チーム委員や講師の助言のもと、それぞれに多様な考えが出された。チーム発表により全体での共有を行い、今後はチーム毎に部会を設定し、事業をそれぞれで進めることとした。



東和チーム　ファシリテーショングラフィック　竹迫和代氏　作成

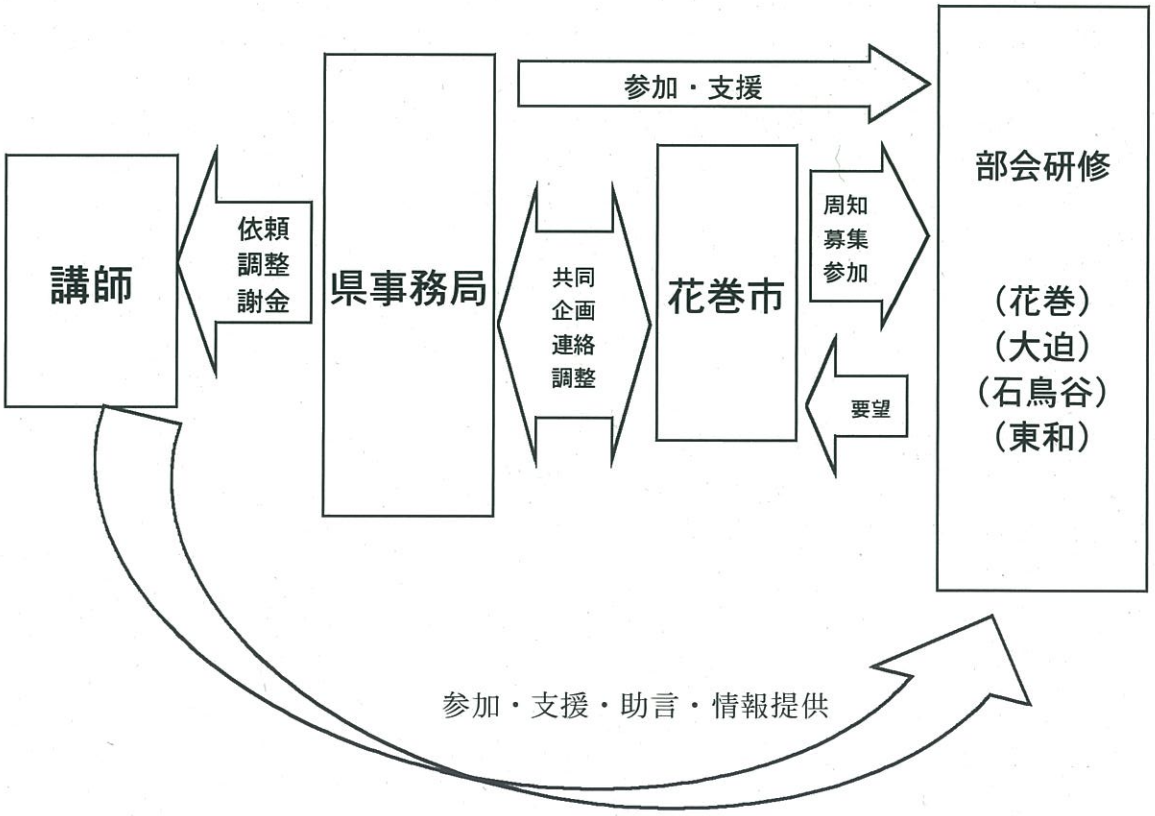
エ　部会毎振興センター職員・地域コミュニティリーダー等研修会

（ア）部会毎研修会の概要

全体研修会で４部会が成立し、事業をそれぞれで進めることとなり、第１回の部会毎の研修会を以下の通り実施することとした。

部会名	日時	会場	内容等
花巻	9月14日(火) 16時～	花巻中央振興センター	・職員打合せ ・まちあるきワークショップ企画検討会
大迫	9月15日(水) 10時～	大迫交流活性化センター	・総合支所振興センターネットワーク構築事業企画検討会
石鳥谷	9月22日(水) 10時～	八重畑振興センター	・地域体験青少年モデルプログラム企画ワークショップ
東和	9月22日(水) 13時30分～	土沢振興センター	・地域づくり事例集作成企画検討会

講師は全体研修会まで両講師に対応願っていたが、４部会と多くなること、よりきめ細かく対応願うこと等から、花巻と大迫部会は岡村講師が、石鳥谷と東和部会は竹迫講師がそれぞれ担当することとした。講師との連絡調整や情報提供などは、県事務局が引き続き行いながら、各部会への参加体制をづくりった。また、各部会の依頼や案内について、花巻市と協議し、花巻市まちづくり部から研修会の事業周知を行い花巻市の事業として部会研修を位置付けることなど業務分担の詳細についても打合せを行い、部会研修を進めることとした。



（イ）花巻部会毎研修会

花巻中央振興センターでは、地域ビジョンの策定に取り組む前段階として、地域の現状を確認・集約し、現状を立体的に表したジオラマの製作を考えている。今回の事業では、その基礎となる「ジオラマ製作」の見通しと「街並みウオッチング」の手法について地域住民が主体的に取り組むことができることを目指し本事業を導入した

① 事業名　「地域ビジョン策定に向けてた『ジオラマ』製作事業」

② ねらい　地域ビジョン策定に向けてた「ジオラマ」製作について、どのような手立てを組めば有効となるか、振興センター職員や地域コミュニティ会議が中心となり事業企画を行い、多くの地域住民を巻き込んだ事業展開を目指す。

③ 概　要

○花巻地区振興センター職員会議

・日時　９月７日（火）

・会場　花南振興センター

・内容　事業企画について、街あるきに必要なこと、今後の計画等

○第１回部会研修

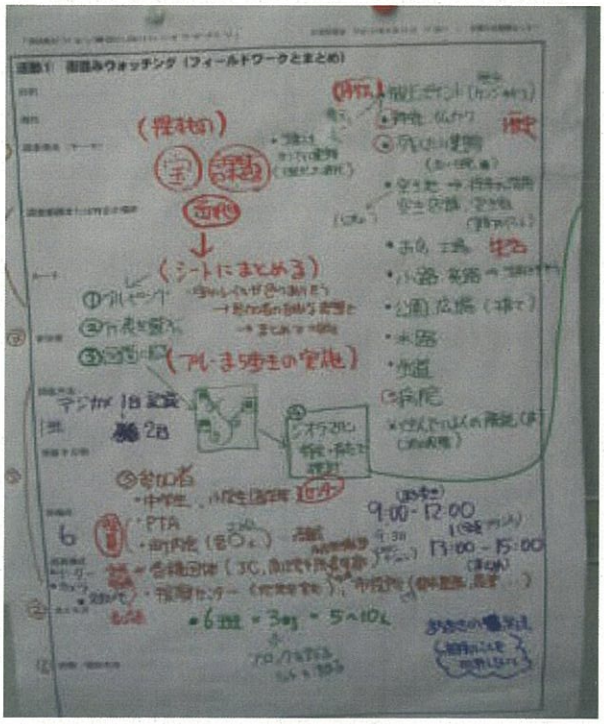
・日時　９月14日（火）17時～
（15時～事前打ち合わせ・準備）

・会場　花巻中央振興センター

・参加者　13人（振興センター職員、地域コミュニティ会議メンバー等）

・内容　岡村講師の進行により、地域づくりビジョンとジオラマ製作の基本的な確認事項について話し合われた後、具体的な「街並みウオッチング」の方法について参加者から多様な意見が出された。「街並みウオッチング」の視点や参加を呼びかける団体や機関などを決め、10月16日に「街並みウオッチング」を行い、第２回の部会研修に位置付けること。その事前に企画委員等でプレまちあるきを行い、当日に備えることなどが話し合われた。

※プレまちあるきは９月23日に企画委員・振興センター職員等により実施され、９月28日には、同メンバーで当日に向けてて協議を行った。



街並みウオッチングシートまとめ

○第２回部会研修

・日時　10月16日（土）９時～

・会場　花巻中央振興センター

・参加者　81人

（小学生、中学生、PTA、青年会議所、食改協、町内会、振興センター職員）

・内容　「街並みウオッチング」では、６班編制により現地観察を行った。「宝物発見シート」「課題発見シート」に記入すること。デジタルカメラで記録を撮ること等確認し、午前中まちあるきを行った。午後からの「結果の整理・発表」では、岡村講師から整理・発表の方法について説明を受けた後、班毎に①発見シートの紹介（班内で個人発表）②発見シートの整理（シートのグルーピング・見出しつけ・地図の整理・キャッチフレーズをつける）③発表会（１班５分）④クロージング（講師評価など）を行った。

今回の成果を「ジオラマ製作」に結びつけるために話し合いを持つことし、第３回の研修会として位置付け、11月13日に実施することとした。

街並みウオッチング発表シート

○第３回部会研修

・日時　11月２日（火）18時30分～

・会場　花巻中央振興センター

・参加者　14人

（振興センター職員、地域コミュニティ会議メンバー等）

・内容　ジオラマ作製業者（スタジオ東日本）が見本の一部を提示した。岡村講師コーディネートの下、「縮尺」「主要な建物・宝物・課題の表現方法」「今後のスケジュール」等について協議した。また、「街並みウオッチング」で作製し、グルーピングした「発見シート」について、再点検し、「ジオラマ作製」に向けてさらに取りあげたい地域の「宝物」や「課題」について協議した。さらに追加や修正が必要なものについては、11月13日（土）～14日（日）の期間に町内会毎に写真を撮影することを確認した。

④今後の展望

ジオラマについては、年度内の完成を目指すし、作業はおおむね業者に依頼するが、一般住宅の模型については住民自らがスチレンボードを切り取って作製し、来年度の地域ビジョンづくりに向けてた活動につなげていくこととした。

（ウ）大迫部会研修会

大迫町は総合支所と町内４振興センターがあり、花巻市内でもっともコンパクトな形態となっている。今回は大迫の課題を明確にし、課題解決に向けてた事業を、振興センター・総合支所・まなび学園が共同で企画していくことにより、職員間のネットワークを構築すると共に、事業を推進するに当たっては、大迫の関係機関・団体と共同で取り組むことにて、地域のネットワークを構築することを目指し本事業を導入した

① 事業名　「総合支所・振興センターネットワーク構築事業」

② ねらい　大迫町の課題について明確とし、その解決に向けてて振興センター・総合支所・まなび学園が共同で事業を企画し、役割をそれぞれが担うことで職員間のネットワークを構築する。また、事業推進に当たっては関係団体・機関と連携し、新たなネットワークの構築を目指す。

③ 概　要

○第１回部会研修

・日時　９月15日（水）10時～

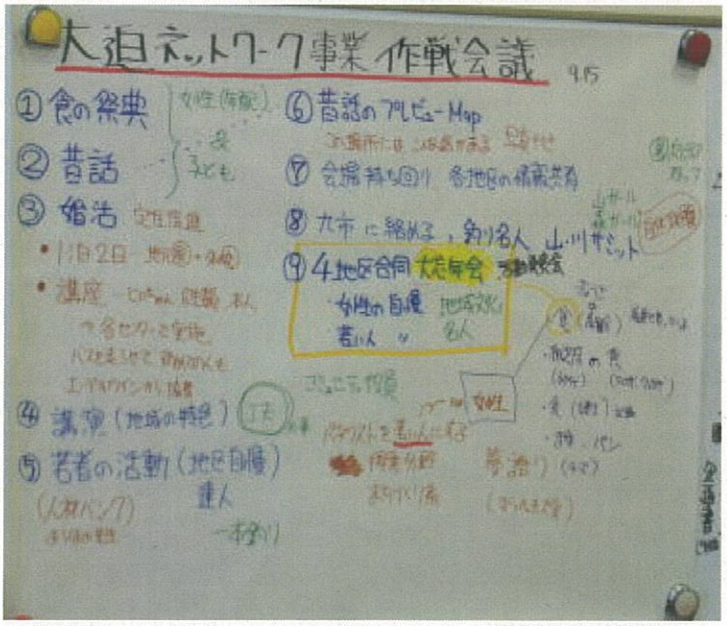
・会場　大迫地域交流活性化センター

・参加者　７人

（振興センター職員、大迫総合支所職員等）

・内容　部会研を実施する前に職員から事前に事業について提案書を提出し、当初その提案書をもとに話し合った。

「食の祭典2010」「市民交流会」「地域自慢会」などの提案があったが、協議を進める中で「若者を対象とした事業」が必要であるとの共通課題が明確となった。具体的な事業については若者をターゲットとした「４地区合同『大忘年会』」を企画し、それぞれの地区から実行委員を募って実施する方向となった。



９月15日ファシリテーショングラフィック　岡村竹史氏作成

○事業企画会議

11月15日（火）大迫地域交流活性化センターを会場に企画会議を行った。

花巻市から「アイスキャンドル」作成に係る事業提案があったが、協議を進める中で「あねっこ市」に関わった事業を進めることで、事業本来の目的である「職員間のネットワークの構築」（振興センター単位で募集や郷土食

の提供、総合支所で企画・関係機関との連絡調整、まなび学園で花巻市全体への周知募集）が可能となること。「あねっこ市」を通して、以前の大迫を知る生涯学習事業につながること。また、若者の参加に向けてて取り組みやすいこと等多様な発展性があることが確認された。

社会教育による地域の教育力強化プロジェクト総合支所・振興センターネットワーク構築事業

『大迫あねっこ今昔物語』

● 昔の写真 ☆ 着物モデルさん 募集 ●

懐かしい昔の写真募集！

昔の祭日、各集落の風景、昔の結婚式、家族、子どもたち、集落の人々、神楽や郷土芸能など、昔の大迫地域の様子がわかる写真ならなんでもOK（白黒歓迎）。お借りした懐かしい写真のすべてを一冊に集め、活性化センター大ホールに飾りたいます。みんなの力で、懐かしい昭和の時代へタイムトリップ！

掲示予定期間：平成23年2月25日（金）～3月3日（木）
A-4以下のサイズであればOK。最寄りの振興センターへお持ちください。
カラーコピーなど必要な処理を行った後、返却します。
（原本は掲示しません）

昔の・今の・そして未来の・・・
あねっこ着物モデルさん募集！

2月最後の示日は『あねっこまち』が開催されます。
その昔、あねっこさんたちは着物で着飾って出かけ、お見合いの機会にもなっていたとか…また、子どもたちも着物を着せてもらい、お祭さんを見せてもらうのが楽しみだったようですね。

「私は、この着物を着てあねっこまちを歩きました。」
「私は、この着物でお父さんに誘われました…。」
そんな想い出深い着物をお持ちの方を募集します。
成人式の着物や婚礼衣装、子どもたちの晴れ着も大歓迎！
「今昔あねっこ着物ファッションショー」に、出場しませんか？

実施予定日：平成23年2月27日(日) 13：30～
会 場：大迫交流活性化センター多目的ホール

☆お気軽にお問い合わせ、お申し込みください！☆ 申込締切 平成23年1月31日（月）
大 迫振興センター 電話48-3231 内川目振興センター 電話48-5301
外川目振興センター 電話29-4112 亀ヶ森振興センター 電話48-2668
大迫総合支所地域振興課地域づくり係 電話48-2111（内線222）

事業周知リーフレット　大迫総合支所作成

12月2日（木）第２回目の企画会議で、①大迫今昔写真展＆懐かしのフィルム上映②今昔あねっこファッションショー③あねっこ自慢のごっつぉ郷土食試食会④各地区コミュニティ会議の活動発表（パネル展示）の４っつが確定した。総合支所並びに振興センターで役割を分担し、地域住民への参加や情報提供の呼びかけ（振興センター便り等の活用）など、計画的に行っていくことを確認した。

○第２回部会研修

・日時　１月31日（月）13時30分～
・会場　大迫地域交流活性化センター
・参加者　17人（振興センター職員、大迫総合支所職員、各振興センター地域住民等）
・内容　各振興センターから２名ずつ「あねっこ自慢のごっつぉ郷土食試食会」を担当する地域の方と「今昔あねっこファッションショー」の着付けを担当する方も加わり、具体的な事業に向けてての話し合いを行った。当日までの取り組みや役割分担、また当日の日程や詳細な流れなどについて具体的な協議が行われた。岡村氏から「あねっこ自慢のごっつぉ郷土食試食会」について、様々な事例が紹介され、食に関わった地域づくりの可能性と展望について適切な助言もあった。今回の協議を受け、当日までにそれぞれの振興センターや総合支所で取り組むこととし、連絡調整の窓口は総合支所が行うことが確認された。

○「あねっこ今昔物語」事業

・日時　２月24日～３月３日

・会場　大迫地域交流活性化センター

・内容　大迫町の恒例行事である「大迫宿場のまちの雛祭り」の期間を捉え地域の方から提供いただいた写真約170点を新たに印刷し直し、パネルに掲示事業期間公開した。また、８㎜フィルム映像の提供もあったため、市職員がデジタル編集を行いDVD化したものを、適宜映写した。

２月27日（日）13時30分からの着物ファッションショーに先立ち、「花嫁行列」を再現した。ファッションショー参加者や振興センター職員も加わり大迫町内を歩いて会場に到着後、18人の参加者により「今昔あねっこ着物ファッションショー」を行った。「花嫁行列」の効果もあり、会場には約250人の観衆が集まり、多くの立ち見も出るなど大盛況であった。ファッションショー後「あねっこ自慢のごっつぉ郷土食試食会」として14時30分から、４振興センター毎に約200食の郷土食（がんづき、あずきだんご、豆銀糖、かまやき）の試食会を行った。振興センター毎に地域の担当者が試食を振る舞った。「ファッションショー」の観衆が流れたこともあり、10分程度で試食品がなくなるなど、こちらも盛況のなか終了した。

④今後の展望

本事業で、各地区の交流が活性化されるとともに、新たなネットワークが構築され、次年度以降も振興センターが地域住民を巻き込みながら、様々な事業展開ができる足がかりとなるとともに、総合支所と振興センターの関係づくりが進んだ。また「あねっこ今昔物語」事業への参加者が多く大盛況であったため、次年度以降の継続も期待される。

（エ）石鳥谷部会研修会

石鳥谷町は以前から小学校と振興センターが共同で事業展開をしている事例が多い。今回は、八重畑振興センターにおいて「地域体験青少年モデルプログラム」を企画し、町内振興センター、小学校、関係機関・団体が自分たちの役割を明確にし、モデル事業に取り組むことで、地域のネットワークを構築を目指すすこと。また、振興センター職員も一緒にプログラム作成に関わり事業構築のスキルアップを目指し、本事業を導入した。

① 事業名　「八重畑地区りんご丸かじり事業」

② ねらい　八重畑振興センターが核となり、町内振興センター職員、小学校、地域コミュニティ会議、関係機関・団体が「地域体験青少年モデルプログラム」事業を企画・運営する過程を通して、地域のネットワークの構築を目指すすとともに、魅力ある事業企画立案のスキルアップを目指す。

③ 概要

○第１回部会研修

・日時　９月22日（水）10時～

・会場　八重畑振興センター

・委員名簿（県事務局と花巻市は除く）

	所属	職名	氏名
1	好地振興センター	上席主任	大竹　誠治
2	大瀬川振興センター	主任	伊藤　瑞紀
3	八日市振興センター	副主任	藤原　清貴
4	八幡振興センター	主任	佐藤　英進
5	新堀振興センター	主事	佐藤　勝也
6	石鳥谷総合支所地域振興課		
7	石鳥谷生涯学習会館	社教指導員	
8	八重畑小学校	校長	阿部　幸子
9	八重畑小学校（3年生担当）	教諭	佐々木　祐子
10	りんご農家		継枝　　弥
11	アインブーフ	代表	小原　康子
12	八重畑小学校3年生児童	保護者	
13	八重畑コミュニティ協議会	会長	市川　　泝
14	八重畑コミュニティ協議会生涯学習部会	部会長	渕澤　吉和
15	八重畑婦人会	会長	佐藤　祥子
16	参画はぐくみ工房	代表	竹迫　和代
17	八重畑振興センター	局長	伊藤　榮一
18	八重畑振興センター	主事	岩清水　紀宏

・内容　八重畑振興センターで、「地域体験青少年モデルプログラム」事業を担当するに当たり、８月25日に行われた全体研修会でその骨子について、石鳥谷町内振興センター職員間で検討済みであった。上記委員は、全体研修会を受け八重畑振興センターで決定し依頼したものである。当日のプログラムは竹迫講師が作成し、会議のファシリテートも竹迫講師が以下の内容において行った。①開会（全体事業説明・参加メンバー紹介）②議題検討（小グループに分かれてアイディア出し：４人グ

ループ→全体で共有：検討）③役割検討（一人一役、子どもの役割は）④クロージングタイム（次回の確認）。

様々な関係者が集まったが、主に八重畑地区の地域住民であったため、小グループでの話し合いも、スムーズに進められた。また、全体検討会や役割分担では、竹迫講師が提案された内容をファシリテーショングラフィックの手法を用いて、構造的にまとめ、話し合いを活性化させるために有意義であった。決定した事業内容として①小学校３年生の総合的な学習の時間に位置付け、収穫体験とりんご調理体験を行う②収穫体験の時のりんご農家への課題について子どもが事前に考えてくる。③事業には委員（親、振興センター職員等）も一緒に参加④調理体験では「おはなし会」「りんごタワー競争」「りんごすりおろし（ジュース・ホットケーキ・りんごパイ作成）」を実施すること、日程や役割分担のおおよそも決まり、八重畑振興センターで、その後の連絡調整を行うこととした。また、２回目の部会研修を調理体験当日に実施することとした。

○収穫体験

・日時　11月４日（木）９時30分～

・会場　りんご農家（継枝委員のりんご畑）

・内容　総合的な学習の時間を使い、以下の内容で実施した①継枝さんの話②児童からの質問③収穫（一人３個）④まとめ

○調理体験（第２回部会研修を含む）

・日時　11月11日（木）９時30分～

・会場　八重畑振興センター

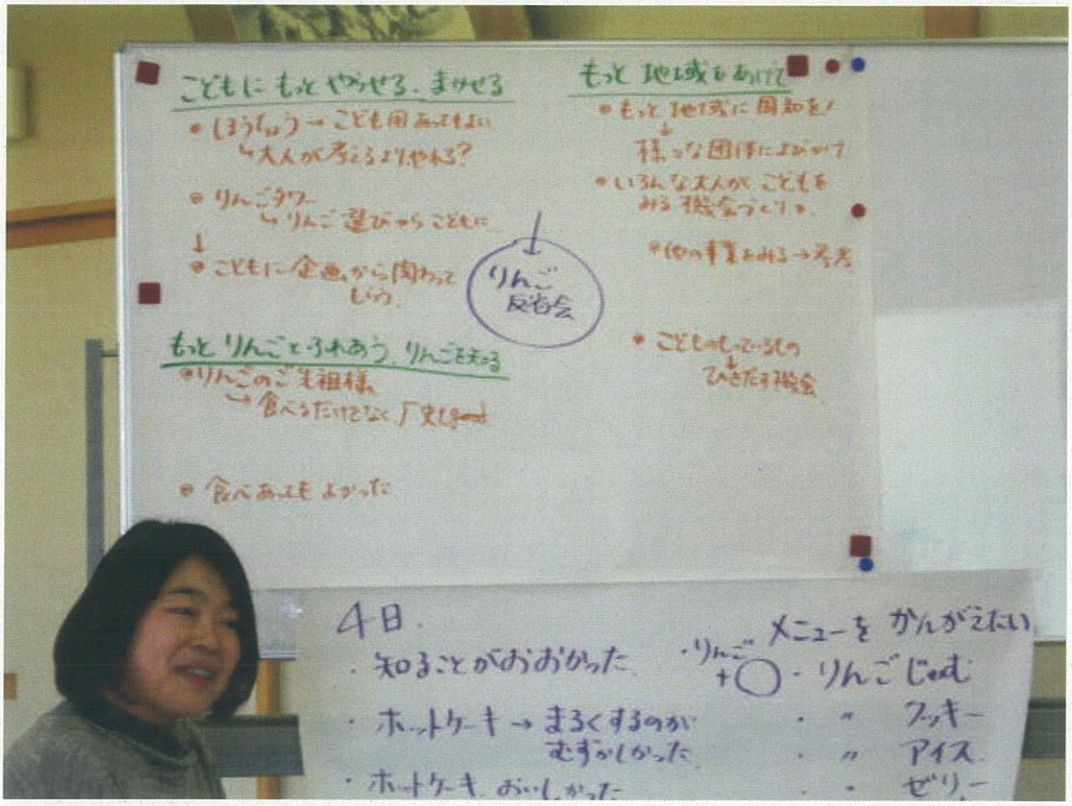
・内容　総合的な学習の時間を使い、以下の内容で実施した①りんごタワー競争（１分間で何個積めるか）②りんごすりおろし体験③調理体験（なんちゃってアップルパイと

りんごホットケーキ）④試食⑤プレクイズ大会（りんご学習で学んだことを次週に行われるクイズ大会のために練習）⑥感想発表（振興センター職員等による児童へのインタビューと竹迫講師による児童への全体インタビュー）児童が戻った後、「りんご反省会」を竹迫講師の進行で実施した。児童の反省をまとめた模造紙をもとに、委員から感想も含め

多様な意見が出された。事業内容の反省に加え、「子どもに企画から関わってもらう」「子どもの持っているものを引き出す」など、事業の在り方についての意見も出された。

④今後の展望

次年度以降も、同様の事業を八重畑振興センターが核となり、年間を通した事業を展開する方向で検討することとなった。とくにも次年度は「子どもの参加」について計画的に事業企画を行うとともに、関係機関・団体とのネットワークをより強め、効果的な事業展開を進めたい。



11月11日「りんご反省会」ファシリテーショングラフィック　竹迫和代氏作成

（エ）東和部会研修会

東和町は６振興センターと総合支所が、それぞれに特徴的な生涯学習事業を展開している。今回は、振興センターと総合支所で実施している事業を基本として「特色ある地域づくり事例集作成事業」に取り組むことし、行政・コミュニティ会議・各団体等の地域づくり事例を冊子としてまとめ、今後の地域づくりのヒントとなる「モデル事例集」の在り方を検討することを目指し本事業を導入した。

① 事業名　「特色ある地域づくり事例集作成事業」

② ねらい　町内６振興センターと総合支所が実施している生涯学習事業について、その特徴的な事例を、今後の地域づくりの参考とするような「地域づくり事例集」を作成する過程を通して、職員間の情報交流並びに事業関係者との関係づくりを行い、多様なネットワークの構築を目指す。

③ 概要

○東和地区振興センター職員会議

・日時　９月７日（火）

・会場　東和総合支所

・内容　事業概要について、今後の計画等

○第１回部会研修

・日時　９月22日（水）13時～

・会場　東和総合支所

・内容　全体研修や職員会議で出された各振興センターの事業等について再度確認を行った。田瀬の「みのりまつり」小山田の「地区民運動会」浮田の「農産加工（豆腐づくり）」成島の「地元学講座」谷内と土沢の「合同開催事業（そば打ち体験）」総合支所の「講師情報（高齢者教室・女性学級）」などが確認され、それぞれのテーマのネーミング等も意見交流を行った。また、この事例集は①読み手は振興センター職員を対象とした「特色あるヒント集」とする②それぞれの事業の経過や参加者の感想等について、様々な人にインタビューして生の声も載せたい③事業によっては、メリットやデメリットも載せる④ちょっと一工夫や失敗談など興味関心を高める内容も工夫する。などが話し合われた。

○第２回部会研修

・日時　10月７日（水）13時30分～

・会場　花巻生涯学園都市会館

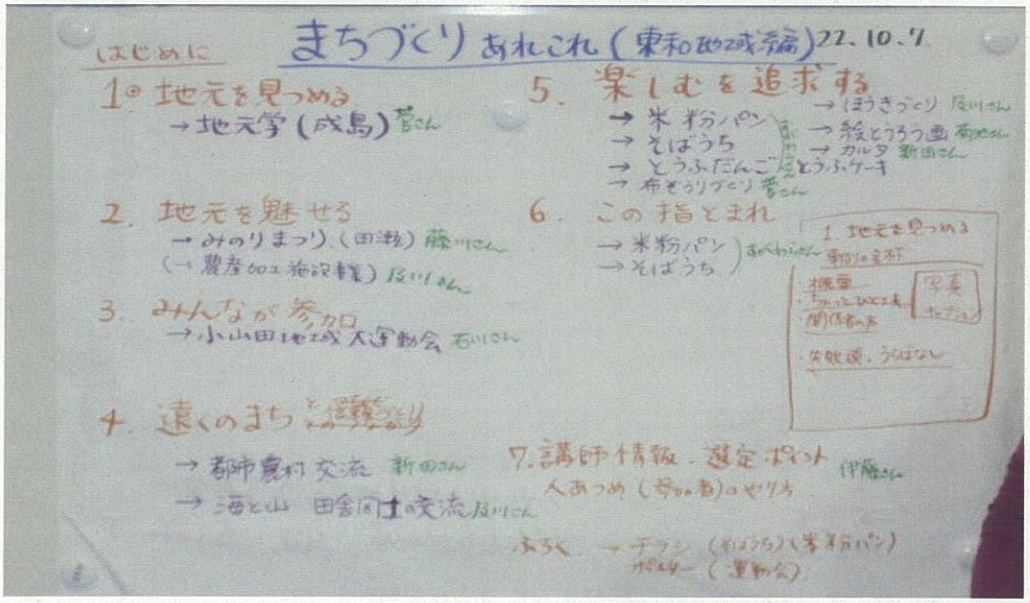
・内容　前回の第１回部会研修からの継続として「事例集作成」について協議を行った。事例をもとに「テーマ」を決め、その魅力的なネーミングや、

事例をどのように関係づけるかなどを中心に話し合いが進められ、それぞれの担当者も以下のように進める
こととなった。

テーマ等	事業名　等	担当振興センター等
地元を見つめる	地元学	成島振興センター
地元を魅せる	みのりまつり	田瀬振興センター
	農産加工施設事業	浮田振興センター
みんなが参加	小山田地域大運動会	小山田振興センター
遠くのまちと信頼づくり	都市農村交流	田瀬振興センター（新田）
	海と山、田舎同士の交流	浮田交流センター
楽しむを追求する	米粉パン・そば打ち・とうふ団子	谷内振興センター
	ほうきづくり	浮田振興センター
	絵とうろう画	土沢振興センター
この指とまれ	土沢と谷内振興センターの共同（米粉パン等）	谷内振興センター 土沢振興センター
講師情報（選定ポイント）、人集めなど		東和総合支所

平成22年10月７日現在　第２回部会研修後テーマ等一覧（案）

その他にも「はじめに」「ふろく（事業チラシやポスター）」なども適宜追加することとし、次回の部会研修までに、記載フォーム（雛形）の提案をし、そのフォームに入れ込んで事例集を作成すること。事例集の標題を「まちづくりあれこれ（東和地域編）」にすることなどが確認された。



10月７日　ファシリテーショングラフィック　高迫　和代氏作成

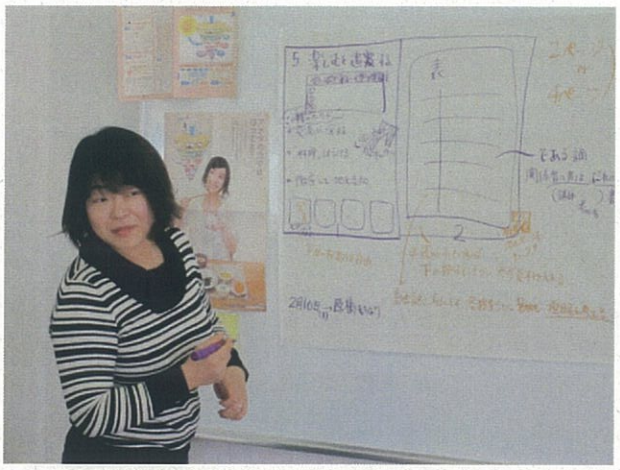
○第３回部会研修

・日時　２月３日（水）11時～

・会場　花巻市保健センター

・内容　第１回職員打合せ以降も、職員間で何度か参集し、個々で作成した資料をもとに全体で検討会を行った。竹迫講

師から「魅力的なレイアウトにするために」「見出しのネーミング」「語尾の統一」など、振興センター職員の参考となる「事例集」づくりを目的とした協議が行われた。また、１事例２ページとするとか、今回の資料に不足な事項があれば、再度情報収集を行い資料追加するなど今後の取り組むべきこと等についても話し合われた。今回の経過をもとに、２月17日に第４回の部会を実施すること。２月中には原稿をあげ、製本印刷を行うこと等について確認された。



○第４回部会研修

・日時　２月17日（水）10時～

・会場　花巻生涯学園都市会館

・内容　前回の研修より決定したレイアウトにより各担当者が原稿を作成。各事業の「キーワード」のアイディア出し作業や、文字の大きさやフォント等、事例集を見る人にとって魅力的な事例集とするために協議を行った。とくに「キーワード」は、一読して事業の魅力や内容が伝わるように、全員で意見交流を行った。

２月中に再度原稿を持って集まり、確認後印刷業者に依頼し３月中旬には印刷完成、配布を行う事を確認した。

事例集表紙

事例集「地元をみつめる」から

④今後の展望

地域づくり集は、印刷して各振興センターに配布し、今後の事業展開の参考としてほしいこと。また、東和地区のみで終了せず、各総合支所等を中心に作成作業に取り組んだり、振興センターや地域コミュニティでも、事業成果や課題を明確化するために、それぞれの地区でも事例集作成に取り組むことが期待される。

オ　モデルプログラム発表会

・日　時　２月３日（水）13時30分～

・会　場　花巻市保健センター

・参加者　振興センター職員、地域コミュニティ会議役員、市社会教育関係職員等78名

・内　容　前半では、各振興センターから４モデルプログラム「花巻地域のモデルプログラム地域ビジョン策定に向けたジオラマづくり」「大迫あねっこ今昔物語　総合支所・振興センターネットワーク構築事業」「石鳥谷地域八重畑地区りんご丸かじり事業」「東和特色のある地域づくり事例集作成事業の取り組みについて」の発表を行った。それぞれの取り組み状況から、成果と課題を発表するとともに、本事業への取り組みの有効性と今後の方策についての発表もあった。また、発表後それぞれの事業に関わった、竹迫・岡村両講師から助言を得た。

後半は「ワールド・カフェ」の手法を用い、参加者間の意見交流を行った。話し合いのお題を「おらほのコミュニティ自慢、地域の元気の作り方」「地域の子どもの参画、さあどうする?!」「振興センターの新体制で、現場はどうなる？」「地域の仲間の増やし方・くどき方」「来年度、地域でこんなことやりた～い！」「おすすめ！温泉談義」の６つとして、約１時間30分交流を行った。地域コミュニティ会議と振興センター職員が一同に会し、意見交流を行うのは、はじめてとのことであったが、講師との事前の打ち合わせも十分できたこともあり、たいへんスムーズに交流が行われた。

カ　コミュニティ会議・生涯学習関係職員等研修会

・日　時　３月２日（水）13時～

・会　場　花巻市文化会館

・参加者　地域コミュニティ会議役員、振興センター職員、市社会教育関係職員等24名

・内　容　第１回職員等全体研修会では、振興センター職員を対象としたが、次年度の事業に地域コミュニティ会議の地域の事業担当も加え、実施するのが効果的と考え、研修会の名称を上記の通りとして以下のプログラムで実施した。

1　オープニングタイム
　「あなたの生き方を一言で！」
2　事業バージョンアップにむけて（講義）
3　グループ討議１
　参加者持参事業・来年度計画事業紹介
4　事業のバージョンアップ（個人作業）
　企画書のイメージフォームを参考に、具体的案を書き出し
5　グループ討議２
　個人作業の紹介→グループ１事業を選択
　選んだ事業にみんなでアイディア出し
6　発表会
　各グループで１事業を発表
　投票タイム
7　クロージングタイム

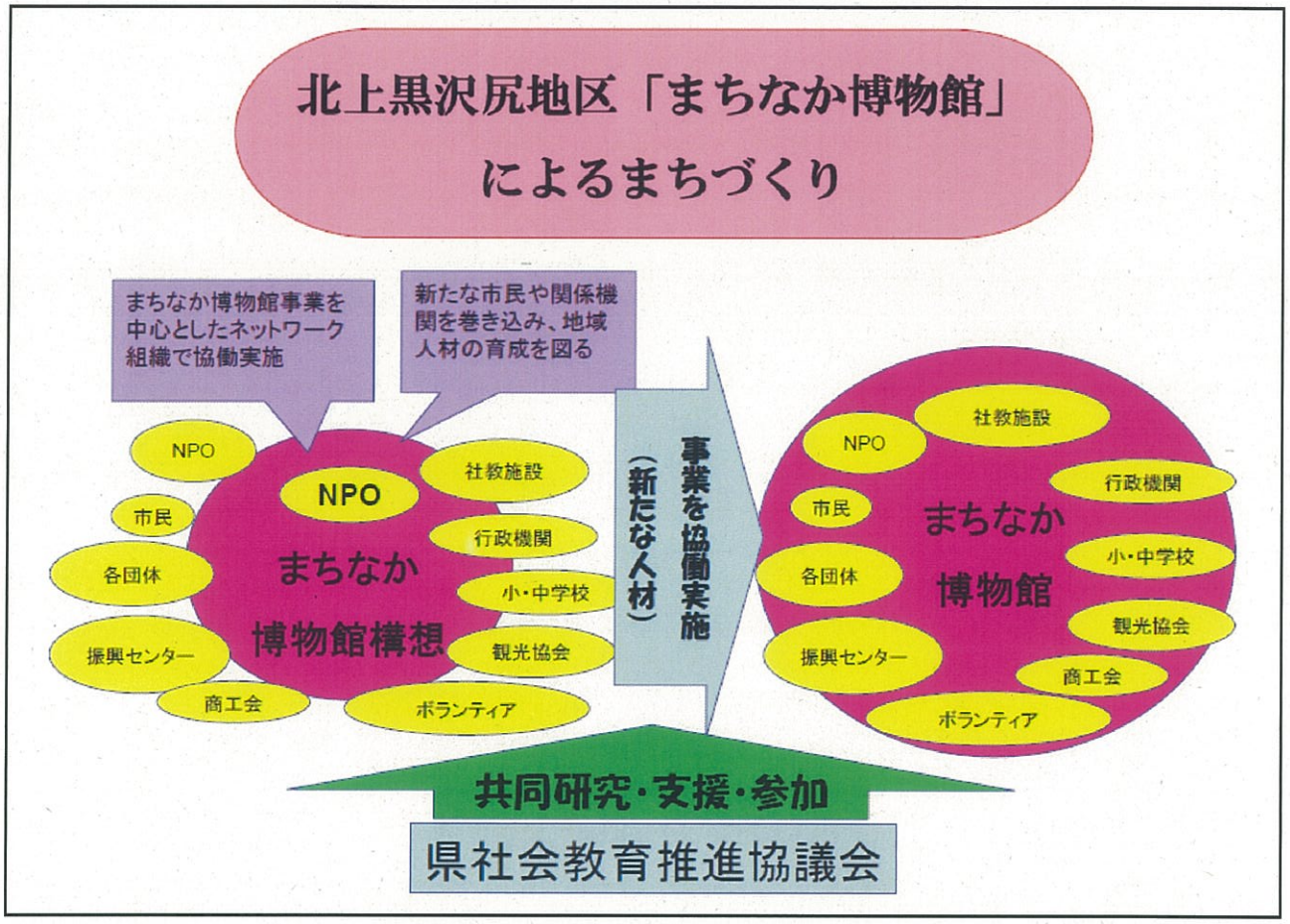
振興センターが持ち寄った事業や次年度やってみたい事業について「企画書フォーム」やグループ討議を通して、地域住民の参画を促しバージョンアップする手法は新鮮であった。参加者は楽しく作業に参加し、次年度事業実施に向けた「事業企画」の手法について学ぶことができた。

発表会では「男の料理教室」「山ガール・森ガール育成事業（ほんとは婚活）」「若者でつくる花巻のフリーペーパー事業!!」「成島地区NEWスポーツ交流大会」の４事業が各グループ討議を受けて代表として発表し、それぞれユニークな発想の中に、竹迫講師作成資料『事業をバージョンアップする11のしかけ』の内容が十分に盛り込まれた事業案となった。

（２）北上実証的共同研究

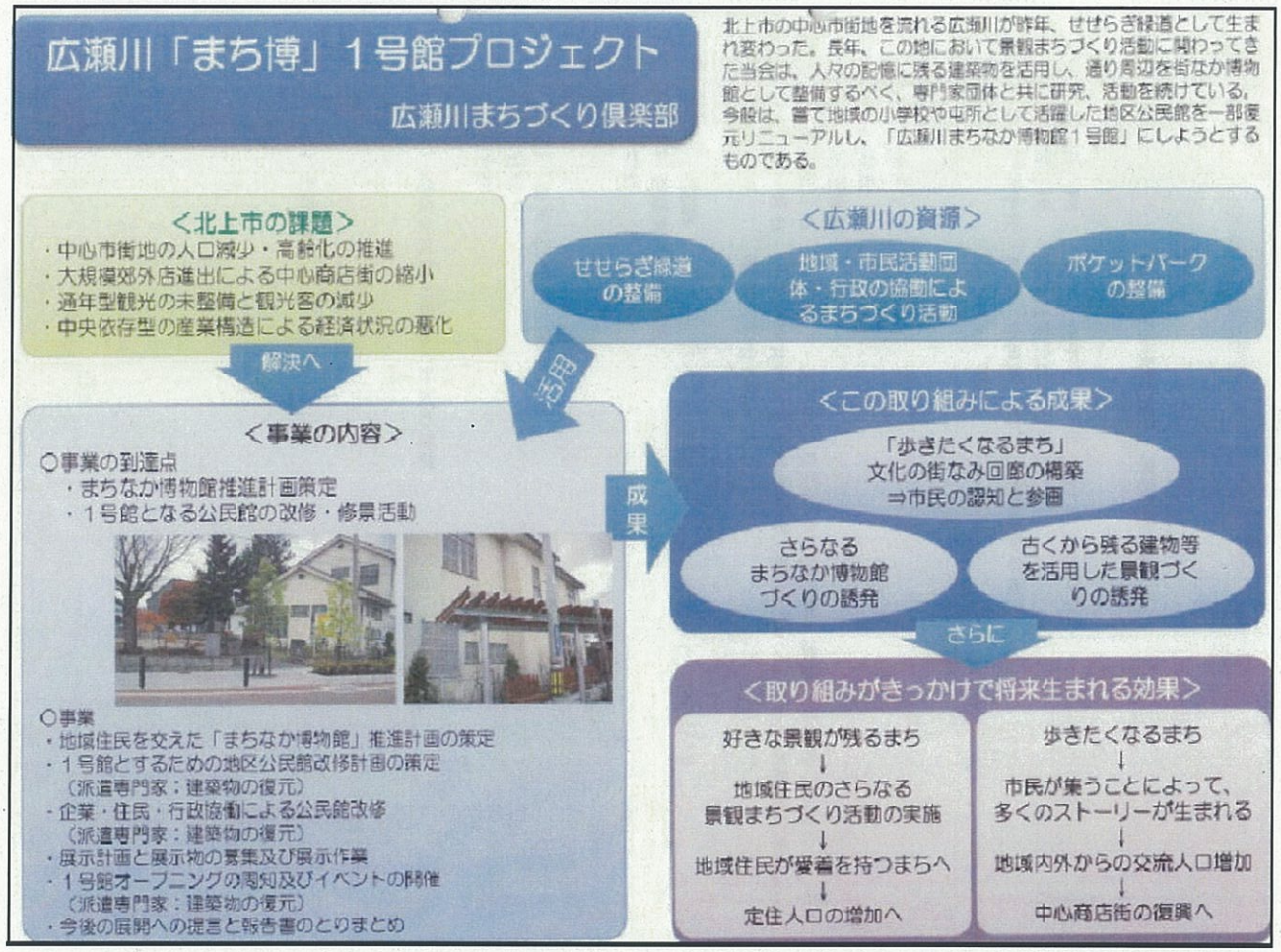
ア　実証的共同研究の概略

北上において「まちなか博物館」構想について実証的共同研究を推進するに当たり、研究テーマを「地域支援人材の育成」と設定し、以下のモデル図に基づいて推進することとした。



北上市の中心市街地である「黒沢尻地区」は、全国の地方都市の多くが抱える問題である、中心市街地の空洞化やシャッター通りなどの課題を抱えている。かつての生業や職人の技、商店街や蔵など、まだまだ面影が残っているものの、その資源を有効活用し、地域を活性化させる活動は、行政・関係機関・民間等様々なところで議論や事業は行われているが、市や黒沢尻地区全体で共通認識のもと進められているものは少ないといる。

市内のＮＰＯ法人「広瀬川まちづくり倶楽部」は、北上市中心市街地を流れる広瀬川を「せせらぎ緑道」とする活動などを行い、継続的に「景観まちづくり活動」に関わってきているＮＰＯ法人である。今回の「まちなか博物館構想」は、広瀬川まちづくり倶楽部がせせらぎ緑道活動を進めながら、その北側に位置する「地区公民館」（元小学校～屯所跡地）を「まちなか博物館１号館」としてし「せせらぎ緑道」のシンボルとするとともに、黒沢尻地区の商店や蔵、歴史的な資料などの様々な資源の情報を収集し、その資源をまとめ、発信してく過程を通して、黒沢尻地区全体が「まちなか博物館」となり、地域を活性化させたいとした構想のもとで検討を進めていたものである。（資料　参照）



「広瀬川『まち博』１号館プロジェクト」説明資料　広瀬川まちづくり倶楽部　作成

平成21年度、当時の北上教育事務所社会教育担当者がこの「まちなか博物館」構想の情報提供を受け、本実証的共同研究を有効活用することにより「様々な機関や団体が有機的に関わることで、まちなか博物館の構想がより豊かな実現可能な事業となること」「まちなか博物館事業過程を周知することで新たな人材が発掘され、新たな人材の育成が可能となる」「まちなか博物館構想を進めることは新たな公共を生み出し、黒沢尻地区活性化につながる」等の様々なメリットが生じることが期待された。

よって、本実証的共同研究を進めるに当たっては、①広瀬川まちづくり倶楽部の「まちなか博物館構想」を進める過程を通して、関係機関や団体と共同したネットワーク組織で「まちなか博物館」の在り方を協議し、構想を黒沢尻地区活性化につながる「まちなか博物館」として形づくっていくこと。②「まちなか博物館」を進める過程を通して、何より地域人材の育成や、それに賛同する新たな「市民リーダー」の育成に重点をおいた「人づくり」を基本テーマとして取り組むこととする。

以上の基本テーマを有効に共同実施していくために、本実証的共同研究を進めるに当たり広瀬川まちづくり倶楽部等のＮＰＯや民間団体、教育委員会に限らず関係する行政関係者、町内会や地区会などの地域団体に、広く参加を呼びかけ進めるようにし、取り組むこととした。

イ　共同研究チーム

（ア）準備打合せ

共同研究を進めるに当たり、そのメンバーや本共同研究の位置付けなど、広瀬川まちづくり倶楽部と協議して、準備・打合せを以下の通り実施した。

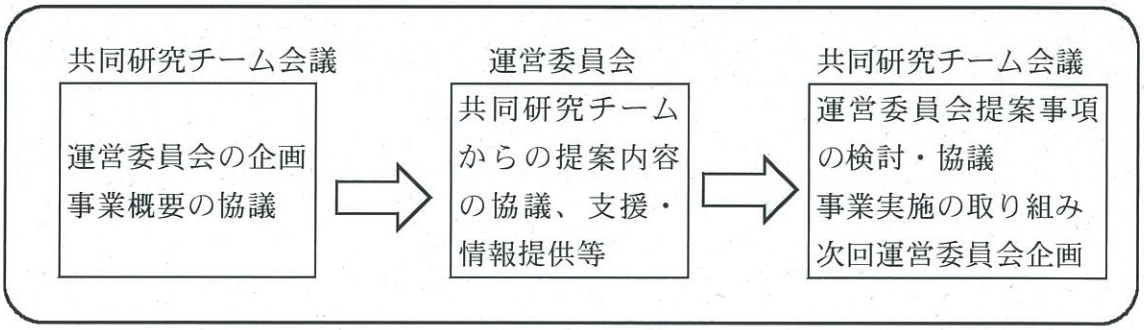
日　時	内　容　等	主な決定事項
7月8日	・広瀬川まちづくり倶楽部事務局長との打合せ事業説明 ・現地視察（広瀬川緑道、地区公民館等）	共同研究チーム発足に係ること務局会議の実施
7月9日	・まちなか博物館第1回事務局会議 ※事業についての共通理解	事業共通理解 共同研究チームメンバー人選
7月15日	・北上市教育委員会生涯学習課との協議 ・まちなか博物館第2回事務局会議	今後の進め方・日程について 運営委員について
7月22日	・広瀬川まちづくり倶楽部役員会参加 事業経過の説明、事業の協議	共同研究チーム会議について 広瀬川まちづくり倶楽部事業との連動について

以上、短い期間に集中して打合せ（事務局会議）が行われたことにより、共通認識が図られ、共同研究チーム発足の足がかりとなった。

また、広瀬川まちづくり倶楽部では「広瀬川『まち博』1号館プロジェクト」として（社）住まい・まちづくり担い手支援機構より「平成22年度長期優良住宅当推進環境整備事業補助金交付」を受け、「まちなか博物館1号館」を予定している地区公民館修景について取り組む等の事業もはじまった。本実証的共同研究では「人づくり」を基本的に進め、同時進行しながら、広瀬川まちづくり倶楽部事業として「まちなか博物館1号館」建物本体のハード整備をそれぞれ実施していくこととした。

（イ）共同研究チームの概要

共同研究チームの役割として、共同研究を進めるに当たり、その方向性と計画を作成すること。また、これから組織する「運営委員会」を推進するに当たり、より広く多様な人材に関わってもらうために「運営委員会」の組織化の準備や運営委員の選定、運営委員会の持ち方など協議することとした。



※　共同研究チームと運営委員会の流れ

また、学習会や視察研修の実施等事業実施に関する協議を行い、本実証的共同研究の推進母体としての役割を担うことした。

チームメンバーは以下の表の通り事務局会議で協議し委嘱した。

No.	氏　名	所　属	職名等
1	山下正彦	街づくり市民の会	事務局長
2	小田島　清	ＮＰＯ法人 わが流域環境ネット	事務局長
3	六本木久志	きたかみDESIGNネットワーク	幹事
4	平野　周	建築士会北上支部	支部長
5	高橋敏彦	いわてＮＰＯ-NETサポート	顧問兼主席研究員
6	高橋幸男	岩手大学教育学部	非常勤講師
7	後藤裕紀	北上市教育委員会生涯学習文化課	社会教育係長
8	菅原真司	岩手県立生涯学習推進センター	社会教育主事
9	佐々木　勉	中部教育事務所	主任社会教育主事
10	菊池一洋	中部教育事務所	社会教育主事

（ウ）共同研究チーム会議の経過

共同研究チームの経過について以下の一覧表にまとめた。また、上記メンバーに加え第２回目からは、北上市建設部都市計画係後藤幸生主任も加わることとなった。なお会場は北上市おでんせプラザぐろーぶ３階市民団体交流ルームで実施した。

	日　時	参加数	協議内容
第1回	８月９日（月）	10人	実証的共同研究の概要について共通理解 「まちなか博物館」事業の進め方について 第１回運営委員会の内容について →８月27日18時～の開催で進める 第１回学習会の内容（講師等）について →小田島委員から　東京在住の西河哲也氏の情報提供
第2回	９月16日（木）	９人	第１回学習会の進め方について →９月22日　講師　西河哲也氏 第１回運営委員会の反省と第２回運営委員会の持ち方について →９月29日に実施 ワークショップ形式で、まち博の情報提供 同日にアートフォーラム・いわて主催のワークショップ まちなか博物館の構想について意見交流

	日　時	参加数	協　議　内　容
第3回	10月15日（金）	9人	第２回学習会（視察研修）と兼ねる ※車中にてまち博構想について協議
第4回	11月１日（木）	9人	第３回学習会（視察研修）の報告と情報共有 第３回運営委員会について →11月16日に実施 内容・事前資料作成・進行・役割分担等について協議 学習会内容等の報告、吉辰商店さんからの発表 運営委員に事前に資料を送付すること これからの進め方について
第5回	１月11日（火）	9人	記念シンポジウムの開催について →１月30日　北上生涯学習センター会議室で実施 内容・事前資料作成・進行・役割分担等について協議 シンポジストの決定・依頼方法について チラシ・ポスターの配付・配架について →北上市の広報として黒沢尻東・西地区全戸配付 黒沢尻第５区周辺商店街への挨拶まわり →１月19日に実施 第６回共同研究チーム会議について →２月21日に実施 来年度以降の組織・体制について協議 公開可能な「蔵」などの情報交流
第6回	２月21日（月）	6人	実証的共同研究のまとめ ・事業報告書について ・今年度の事業の成果・課題等について →◎「まち博」に参画する人々の学習や連携のしくみできる多様な活動と「まち博」構想の広がり ▲管理・運営に関わる課題（定着させるには時間が必要） 次年度以降の「まちなか博物館」事業について →ＮＰＯ広瀬川まちづくり倶楽部が事務局を務める 「運営委員会」の組織を活用し、来年度も事業を進める 共同研究チーム会議を基礎とする「事務局会議」を開催し、必要に応じて関係者や運営委員を加えて行う 来年度の事業内容構想について →観光課と連携した印刷物（マップ等）づくり、ガイドボランティアの養成、２号館づくり、看板作り、蔵のワークショップ、蔵のマップづくり

ウ　運営委員会

（ア）運営委員会の概要

運営委員会の役割として、共同研究チームの提案や事業構想について協議並びに事業支援を願うこと。また、新たな情報提供や人材情報等について多方面から得ることを目的に設置し、委員は以下の表の通りである。

No.	氏　名	所　　属	職名等
1	大　川　正　裕	広瀬川まちづくり倶楽部	会長
2	高　橋　英　雄	黒沢尻第５区	区長
3	和野内　清　彦	黒沢尻第13区	区長
4	澤　藤　善　紀	黒沢尻東地区交流ｾﾝﾀｰ	事務長
5	高　橋　勇　二	黒沢尻西地区交流ｾﾝﾀｰ	事務長
6	昆　野　将　俊	芸術工房	常務理事
7	吉　田　研　一	吉辰商店	
8	高　橋　辰志郎	北上商工会議所	
9	高　橋　春　男	北上商業観光課	課長補佐
10	小笠原　祐　二	北上市社会福祉協議会	会長
11	渋　谷　洋　祐	北上市立博物館	学芸員

※　県事務局並びに共同研究チームメンバー（11人）を除く

（イ）第１回運営委員会

・日　時　８月27日（金）18：00～

・場　所　おでんセプラザぐろーぶ　会議室

・参加者　21人

・内　容　各委員自己紹介の後、本実証的共同研究事業の概要や「まちなか博物館」のイメージ概要について説明を行った。委員から、「まち博１号館の展示内容を考えることと、本共同研究は切り離し、人材育成やしくみづくりについて進めること」「公立博物館とまちなか博物館との違いは何か」「地域人材育成にこれからどのように取り組むか検討課題である」等の意見があった。また委員会後、他の場所で懇親会を実施した。

（ウ）第２回運営委員会

・日　時　９月29日（金）18：00～

・場　所　おでんセプラザぐろーぶ第１学習室

・参加者　19人

・内　容　アートフォーラム・いわてが実施する「北上市広瀬川せせらぎ緑道におけ

るアートフェスタの企画、実験開催」事業に係わる現地調査及びワークショップに参加するとともに、「北上まちなか博物館」事業について黒沢尻東地区・西地区等に分かれて現地調査を実施した。収集された地域情報・資源等について整理を行い、今後の進め方について検討したい。また委員から「新聞等を発行し、活動の広報を行うこと」「事業の内容と進捗状況、運営委員会の位置付け、

各事業との関連等を分かりやすく提示してほしい」「欠席者からも情報を吸い上げられるようにしたい」等の意見が出された。

（エ）第３回運営委員会

・日　時　11月16日（火）18：00～
・場　所　おでんセプラザぐろーぶ小会議室
・参加者　20人
・内　容　報告として事務局から第２回学習会（視察研修）の状況や、吉辰商店の吉田委員から「吉辰商店」所蔵品の説明が行われた。その後事務局から全体構想（まちなか博物館のイメージ）や今後の進め方について提案し、協議を進めた。協議では活発な討議となり、建設的な意見が多数出され、これからの方向性が共通認識された。また、北上市観光協会による意見交換会に参加し、事業連携を図っていくこととした。また委員から「チラシ等の発行により、市民への事業周知を進めたい」（毎月第２・第４金曜日、各区長への配布日）「シンポジウム開催について、より教育的な要素を取り入れて実施したい」「商店主等のニーズを取り入れた活動にしたい」「昔ながらの展示だけではなく、集まりやすい環境や賑わうための遊び場的な要素も取り入れていきたい」等の具体的な意見が多数出された。

ウ　学習会・シンポジウム

（ア）学習会・シンポジウムの概要

「まちなか博物館構想」を進めるなかで、県内外の先進事例や参考事例を学ぶことにより、イメージが高まるとともに、構想から具体的なまちなか博物館について事業展開できることが期待され、学習会（視察研修を含む）と、多くの市民に「まちなか博物館」について周知を図ることを目的に「シンポジウム」を開催する。

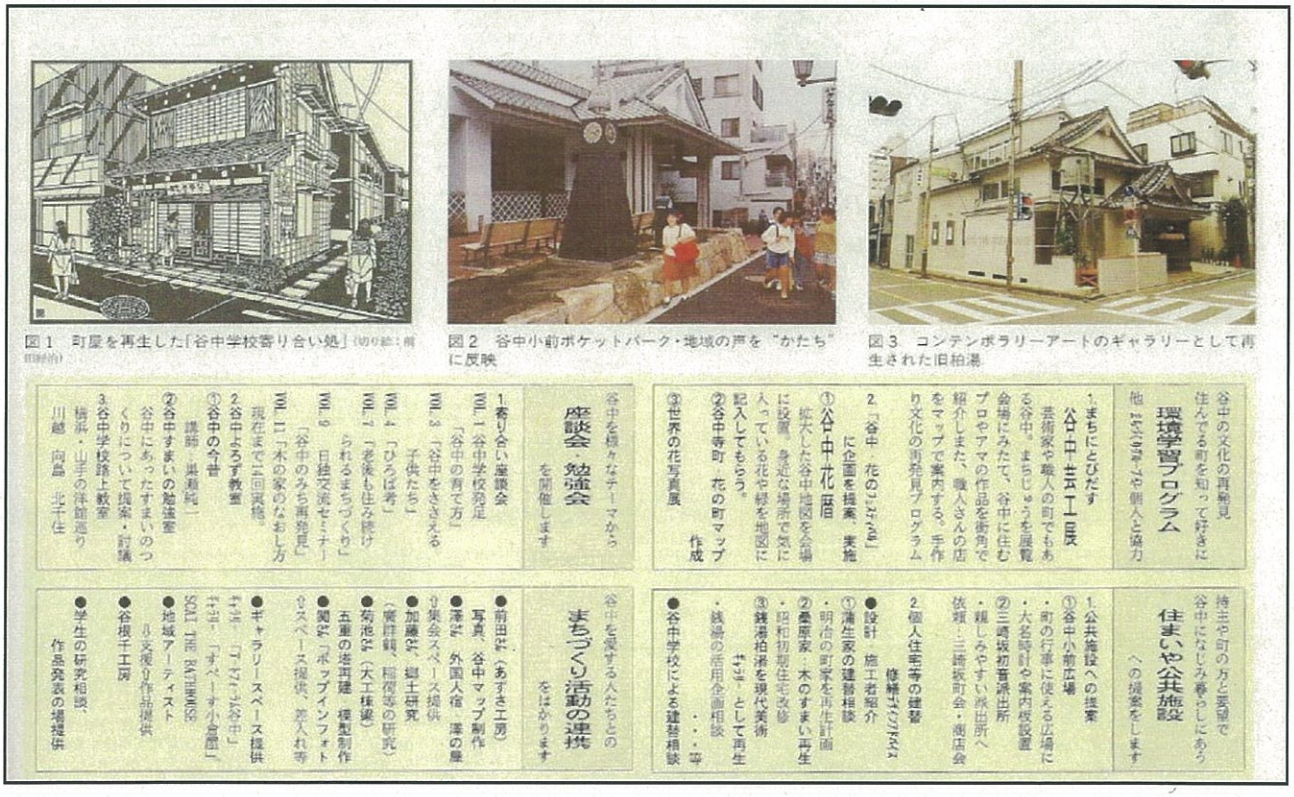
（イ）第１回学習会

・日　時　９月22日（火）18：00～

・場　所　おでんセプラザぐろーぶ第１学習室

・参加者　20人

・内　容　西川地域計画研究所代表西川哲也氏を講師にむかえて学習会を行った。西川氏は東京都谷中地区において、町屋を再生した「谷中学校寄り合い処」やコンテンポラリーアートギャラリーとして再生された旧「柏湯」（銭湯）など様々な施設を市民の活動の場として活用するとともに、様々な事業を展開し、地域再生を行ってきた。西川氏からは、その実践例を具体的に説明いただくとともに、実践例から導き出された、地域活性化のポイントを明快にお話しただいた。参加者からも実践例が「まちなか博物館構想」を進めるうえでたいへん参考になったとする感想が多く、たいへん好評であった。



学習会資料から　　西川地域計画研究所代表西川哲也氏　作成

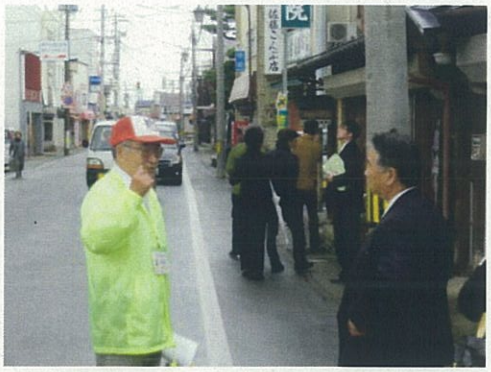
（ウ）第２回学習会（視察研修）

・日　時　10月15日（月）９：30～

・場　所　秋田県横手市増田町、羽後町

・参加者　20人

・内　容



「北上まちなか博物館」づくりの参考とするため、それぞれ「蔵の公開」・「盆踊りを中心とした通りづくり」により中心部の活性化を進めている「秋田県横手町増田町」・「羽後町」の視察研修を実施した。①「建物の生かし方の工夫」②「建物内部・展示方法などの工夫」③「通りづくりの工夫」④「人々の関わり合い」を主な視点とし、一斉行動により参加者同士で随時意見交換等を行いながら視察を行った。終了後、各参加者が参考となった部分、今後の取り組みに向けてた提言等を報告用紙に記入した。

・横手市増田町　「中七日町くらしっくロード」

町観光課と観光ガイドの会が主体となり、町内の「内蔵」を有する家庭に呼びかけ、今年度から一般公開している。公開施設は日程の都合で視察日は８施設中３施設であった。商店街を「くらしっくロード」と名称化し、それぞれの公開施設の案内をするガイドも組織化されていた。行政と地域がうまく連携し、まちづくりを進めている先進事例として参考になった。

・羽後町西馬音内地区　「西馬音内中心部」

西馬音内では「西馬音内盆踊り」観光の中心として地区の活性化を進めている。通りの中心部に「盆踊り会館」を設置し、街並みもそれに伴って整備されている。また、「盆踊り会館」はコンパクトなスペースに適宜まとめられた展示と、盆踊りを紹介するVTRがとてもよくつくられており、展示方法や視聴覚による発信の方法なども併せて参考となった。

参加者からは、「共通の看板や拠点となる施設・場所、見学施設の集約」「ボランティアガイドや蔵などの所有者の積極的な参画」「地元の伝統文化の活用や観光との連携」などが参考になるとの報告があり、「人々の暮らしに寄り添うような博物館づくり」「北上ならではの街の成り立ち（歴史）や地域の『宝』の共有」「住民主導による、住民パワーを引き出した活動」「地域の様々な人々へのはたらきかけと仲間づくり」が必要であるとの声が寄せられた。

（エ）記念シンポジウム

・日　時　1月31日（月）13：10～

・場　所　おでんセプラザぐろーぶ第１学習室

・参加者　53人

・内　容　本シンポジウムは２部構成とし、１部はテーマを「建築と景観から見たまちづくり～北上のまちを様々な視点から見てみよう～」とし（社）住まい・まちづくり担い手支援機構の委託費を活用し「都市景観」からみた「まちなか博物館」の可能性と有効性を、「建築の計画から見たまちづくり」と題して㈱環境デザイン計画代表取締役川島啓道氏と「歴史的景観から見たまちづくり」と題して東北大学名誉教授伊藤邦　氏の講演により検証した。

２部はテーマを「住民のまちづくりへの関わり～まち博で広げる北上の未来～」として、本実証的共同研究による「人づくり」に関わり「まちなか博物館」の活用法やこれからの展望等について、桜美林大学名誉教授瀬沼克彰氏が講演を行った後、本委員でもある　街づくり市民の会山下正彦氏、岩田大学非常勤講師高橋幸男氏、吉辰商店の吉田研一氏から、「みんなで創る『北上まちなか博物館』～「まち博」によせる熱き想い～」と題してトークセッションを行った、トークセッションのコーディネートは講演から引き続き桜美林大学瀬沼氏に依頼した。

講演後のシンポジウムでは、３氏より「まちなか博物館」にかける、それぞれの立場から、今回関わってきた経過も含め発表があった。まとめとして「まだはじまったばかりの事業であり、今後に期待する」「現存する資源や事業を見直しながら、事業を進めること」「組織体制をしっかりとつくること」「地域活性化につながる事業を長く続けてほしいこと」などが協議され、今後とも様々な人たちが関わっていく大切さが共通認識された。参加者の感想からも「これから人づくりが大切であることが理解できた」「まちなか博物館に期待する」等の意見もあり、評価もおおむね良好であった。

＜講演記録＞　　「まちづくりが生涯学習の場となる」

講師　桜美林大学名誉教授　瀬沼克彰氏

私の話は、「まちづくり全体が生涯学習の場となる」ということです。私自身は生まれと育ちが八王子というところです。そこで地域文化というものをどうやって市民主体で作り出すかということで、過去30年ばかりずっと係わってまいりました。本日は皆様方のまちなか博物館の運動に、私がやってきたことが少しでもお役に立てればと思っております。

まちづくりとは、ということで私の場合、利便性の追求と文化性の追求というふうに捉えてきました。利便性の追求というのは、要するに暮らしが便利で快適になることを求めることです。そういった快適に暮らすための条件の整備ということがまちづくりの一つですけれども、まちなか博物館は利便性や快適性の追求というよりも、文化性の景観や心、精神的なものを非常に重視されていると強く感じました。本日の主題でいえば、生涯学習というものがまちづくりに非常に重要だという問題設定です。生涯学習というのは方法論ですので、そこから成果が出てきます。その成果を私は地域文化と捉えております。今まで文化づくりというと、どうしても行政サイドが中心でした。生涯学習というのは行政主導で始まりましたが、時代の流れ、様々な諸般の理由によって、住民主導に切り換えなければならないという流れになっております。その中で、個人サイドの活動が盛り上がってくるところが生涯学習や地域文化が育っているということです。行政サイドにおいては、予算の不足や予算に伴う人件費の削減により、今まで行政が管理運営していた施設を、地域住民の方々に任せるということが起こっていまして、これは全国的な動きです。

生涯学習の活動は３層構造になっていると、私はかねてから考えております。第１段階は基礎、基本の習得ということで、受け身型生涯学習と呼んでおります。学究や勉強をする、講座を受けるなどの学習です。最初は基礎を勉強しなくてはいけない、まちづくりに関する基礎を勉強することはもちろん大事ですので、それが最初のスタートとなります。第３段階は、参加型生涯学習と呼んでいるのですが、みんなでわいわいがやがやと活動が出てきます。単に受け止めたのではなく活動をし始め、吸収から発散のほうに向かっていく段階です。第3段階は創造指導型と呼んでいるのですが、生涯学習の成果が出てきて、それを活かして新しいものを作り出す、発表する、交流する、あるいは若い人たちに指導する、そういったものです。この３層の方は全部必要です。受け手がなければ発信者もないわけですから、発信者と受け手というのが非常に大事になります。

それから、生涯学習をやるにはまず自由時間がなければならない、ということです。自由時間がないと生涯学習や文化活動はできません。そして少しお金が必要です。あとはやる気です。成人教育は学校教育と違いまして、能力ではない、やる気さえあれば何でもできます。成人は、ほぼ全員が学習を成り立たせるための条件を持っていますが、残念ながら多くの人々は使い方が分からないのです。使い方を教えてもらわなかった、自由な時間をどう使うか、やりたいことをやるとどんなに嬉しいか、楽しいかということを大人になって覚える気になっても分からないのです。ですから能力やＩＱは高いけれど、それが使えないで終わってしまいます。色々な啓発活動を国も県も市も一生懸命行っていますが、おやりになる方は10人に1人くらいしかいません。具体的に何をやるかというと、好きなことをやります。書く、絵を描く、園芸、工作、ＤＩＹ、陶芸などです。スポーツ、ネットも大流行ですから、こういう活動が人間開発にとって大事であって、そこから文化というものが生まれます。人間が作った素晴らしいものを展示したり発表したりする拠点が博物館です。北上まちなか博物館は、市民が生んだ素晴らしいものをそこに展示したり、発表したりする小さな博物館だと受け止めております。同市を代表する北上市立博物館で

はなく、街の中に小さなものをたくさん作る運動、そういう運動がスタートしたと思うわけです。活動をやっていくには、個人だけでやっていくことはできません。一人ひとりの持っている力は小さいので、団体としてやっていくために、それをどう連結させるか、連帯させるか、共同化するかが重要です。団体の発展プロセスは、まず誕生させる、それから芽を出させる、成長させる、そして花をつけ、実をならせる、植物と全く一緒です。今日ご出席の皆様方もおそらく3つや4つの団体に所属されていると思います。自分が所属している団体で、自分が伸びると同時にその団体も発展する、所属している人間同士が成長発達する、そのプロセスをどうしていくのかが大事になっていきます。これが目的的行動です。目的的行動をしていなければ、両者が駄目になってしまうということです。

経営の4要素は、人・金・もの・情報この４つです。まちづくり、例えばまちなか博物館を運営していくにあたって、人と金とものと情報をどうするのか、これプラス、システムを入れれば5原則、経営のマネジメントを言えば5原則をどうやっていくかということです。人の問題として、私がひとつだけ大事なことを挙げるとするならば、人数です。会員数が活動の基礎を限定するということが非営利団体などでよく言われます。ですから、是非まちづくりクラブさんには人数を増やしてほしいです。お金は、国や県、あるいは民間法人の資金調整、助成制度、補助金制度というものを勉強して導入していただきたいと思います。私は非営利団体も先立つものがないと活動は進まない、活動はできないだろうと思います。営利を追求してよろしいわけですから、お金という意味で、そういうことに長けている方にメンバーに入ってもらうと良いでしょう。それからものです。ものはお金さえあればだいたい手に入りますので、もので心配することは少ないだろうと思います。それから情報です。数多くのメンバーを集めることができるならば、その中にパソコンに長けている方がきっといらっしゃると思います。そういう方にクラブの情報関係を担当していただくといいだろうと思います。その他、プロの導入や、第3セクター、ＮＰＯです。ＮＰＯを目指されることは、当然皆様方の頭の中にあると思います。そして広報媒体ですが、きっと私が知らないだけで、お作りになったか、あるいは作るだろうと思います。先ほどこのフロアを見学してきましたが、情報コーナーに各交流センターの機関誌が全部綴られているのに驚きました。実に水準が高く、あの感じだと交流センター同士が競ってお作りになって、読んでもらう工夫をしていることがよくわかりました。皆様方のクラブもそういう素晴らしい機関誌、会報をお作りになるといいと思います。

それから、リーダーの方々がメンバーの方々をどう引っ張っていくのかということが大事です。活動団体のメンバーの役割として、強い組織になるためにはメンバーに多くの時間と労働を要求いたします。そのかわり、活動に参加して、そのメンバーがグループから何も得られなければ、また、その団体に入ったことによって、自分の人生が何も変わらないとするならばすぐに退会してしまいます。まちづくりクラブさんも、入ったら自分の人生が変わる、そのくらいじゃないと面白くないですよね。具体的にどういう労働を要求するのか、すべてもちろん無報酬です。仲間づくり、場づくり、資金調達、他団体との交流、プログラムづくり、指導者育成、機関誌づくりなどたくさんあります。

最後になりましたが、八王子で「いちょう祭」というものをやっております。31年間、今日お話したようなことをやってまいりまして、地域文化をなんとか構築することができた、これはまだまだこれからも続いてまいります。伝統的なことも良いのですが、何もないところから文化を創るのも面白いです。お時間がきてしまいました。講演のほうはこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

エ　関係機関・団体連携事業

（ア）広瀬川「まち博１号館」プロジェクト

広瀬川まちづくり倶楽部が（社）住まい・まちづくり担い手支援機構の助成により元消防署として活用し、現在は地区公民館として活用されている一角を「展示スペース」として建物内外の整備を行っている。また、町内会と共同で１月30日には「まちなか博物館オープニングイベント」を実施し、２月中は休日に、一般開放を行った。

（イ）「アート・フェスタ」

(財)岩手県文化振興事業団の文化振興基金助成による「北上市広瀬川せせらぎ緑道におけるアートフェスタの企画、実験開催」やプレオープン事業「アート・フェスタ」を実施している。とくに第２回運営委員会前に、現地調査を合同で行ったこと。「アート・フェスタ企画ワークショップ」に参加した委員もあるなど、多くを連動して実施したきた経過がある。

（ウ）「冬季キャンペーン～冬ほどる北上2011企画～はしご酒ツアー」

北上市商業観光課主催で２月中旬に広瀬川界隈飲食店で予定されている事業である。本事業との直接の関係は少ないが、ツアーのスタート施設として「まち博１号館」を予定し計画中であること。また、お互いに周知等支援しあうことなど場合に応じた連携を行ってきた。

プレオープン事業「アート・フェスタ」チラシ

Ⅲ　実証的共同研究のまとめ

1　花巻市

花巻市において、旧４市町においてモデルプログラム事業を実施した成果を以下の６点にまとめた。

①　事業展開を進める課程で、振興センターを中心とした関係機関・団体・学校等とのネットワークが構築され、事業内容が充実した。（各４事業）

②　旧市町単位でモデルプログラム事業を実施したことにより、振興センター職員間並びに総合支所と振興センターとのネットワークが構築され（大迫、石鳥谷、東和）、交流の機会が進んだとともに、相互支援の必要性が明らかとなった。（各４事業）

③　モデル事業企画・実施（運営）において、地域住民や関係機関・団体の参加率が高まり、各事業への参画が促進された。（花巻・大迫・石鳥谷）

④　各振興センター事業の情報交流を進め、事例集を作成する過程を通して、情報や事業実績が共有されたとともに、情報発信に向けて自分の事業の見直しができた。（東和）

⑤　全国的に活躍するファシリテーターの「参加型学習」手法を学んだり、事業を共同実施することで、職員のスキルアップにつながった。（各４事業）

⑥　花巻市として、地域住民と振興センターとの関係づくりや、振興センター職員研修や交流について、考える機会となった。（花巻）

本実証的共同研究を推進するにあたり「行政と地域住民、関係機関団体」に関わる『行政外ネットワーク』と「振興センター職員間・総合支所と振興センター」に関わる『行政内ネットワーク』の両面から進めてきた経過もある。花巻では「地域ビジョン作成のためのジオラマづくり」において地域コミュニティ会議が中心となった、地域住民の新たなネットワークが構築され、自分の地域を見直す機会となった。石鳥谷でも「りんご丸かじり事業」に様々な関係機関・団体が参画し事業運営を進め『行政外ネットワーク』が進むとともに。両事業とも、市町内の振興センター職員の参加やアイディアが機能し、事業内容が充実し『行政内ネットワーク』が有効に機能していた。また、大迫では、総合支所・振興センター職員が『行政内ネットワーク』を充実させ企画した事業について、新たに『行政外ネットワーク』を構築し、事業をより充実させている。東和でも、事業の情報提供・共有の課程を通して『行政内ネットワーク』を構築し、情報収集並びに「事例集」発行による情報発信の課程を通して、様々な事業成果を期待できるものと期待される。

そして、花巻市が本事業において『行政内・外ネットワーク』構築を進める課程を通し、本来期待される振興センターの役割や機能が、今後促進することが期待されるともに、市と総合支所並びに振興センターの『行政内ネットワーク』が花巻市全体に広がることも期待される。

2　北上市における「まちなか博物館」事業

北上市に「まちなか博物館」に係る事業を実施した成果を以下の５点にまとめた。

①　事業展開を進める課程で、様々な機関や団体が「まちなか博物館」というシンボルを中心に情報交流することにより、北上中心街について考える機会となり、新たな市民や団体、様々な情報を得る機会となった。

②　「まちなか博物館」について構想検討から具体的なオープンに向けた活動を行う中で、多様な人々が関わり、次年度以降の体制づくりを進めることができた。

③　学習会や先進地視察、シンポジウム等を実施することで、北上市以外の様々な情報や考えを知ることができ、「まちなか博物館」の目指す方向性が明らかとなった。

④　本実証的共同研究に加え、(社) 住まい・まちづくり担い手支援機構の助成による「まちなか博物館１号館」建物のハードの整備、(財)岩手県文化振興事業団の文化振興基金助成によるワークショップやプレオープン事業「アートフェスタ」、北上市商業観光課主催で予定されている「冬季キャンペーン～冬ほどる北上2011企画～はしご酒ツアー」等、様々な事業とタイアップしたことで、構想が豊かに広がり、様々な機関や団体と連携することができた。

⑤　地区住民に「まちなか博物館」構想について、事業説明やチラシの配布等周知した結果、新たな博物館候補や協力支援者についての情報が得られたとともに「１号館オープンイベント」はＮＰＯと地区が中心となって取り組み、市民活動として定着することが期待できる。

本実証的共同研究を推進するにあたり、ＮＰＯが中心となって構想を練っていた「まちなか博物館構想」が多様な団体や行政機関、地域住民を巻き込みながら、具体的事業として進んできた。以上の経過からも、概ね地域支援人材が「まちなか博物館」というツールを活用し、地域の課題（中心地市街の活性化）に正面から向き合い、その解決の一つの方策として「まちなか博物館」を作り上げる過程で育成されてきたと考えられる。

また、社会教育という立場で「人づくり」を中心に進めてきたことにより、共同研究チームや運営委員会、各学習会のテーマが焦点化されたといる。得てして「まちなか博物館」等の事業実施を考えると「建物」や「展示物」等のハード面に重きをおく傾向にあると考えられるが、テーマとして焦点化することや、多様な人を関わらせ新たな人材を発掘すること等に重点をおいたため、「人づくり」に特化した事業となった。同時に（社）住まい・まちづくり担い手支援機構の助成による「まちなか博物館１号館」建物のハードの整備も同時進行で進んだため、相互の分担ができたことも、テーマに即した研究となった要因と考える。

さらに、様々な機関や団体が企画する事業を「まちなか博物館１号館」を一つのシンボルとして連携事業を進める過程で、新たな連携や人のつながりが生まれたことや、相互支援体制が構築されたことで、各事業の内容や周知が充実し、相乗的に「まちなか博物館」構想がより豊かになったと考えられる。

おわりに

「社会教育による地域の教育力強化プロジェクトによる実証的共同研究」事業に取り組み、ほぼ１年が経過しました。

はじまりは、単なる「想い」でした。花巻市では「振興センターの生涯学習事業を活性化させるためには、どのようなことができるのか。地域住民と行政とが共同し、あるいは行政内職員が共同して、地域づくりを進めるための生涯学習事業を一緒に考えていきたい」という想い。また、北上市ではＮＰＯ法人が構想していた「『北上まちなか博物館』を事業として市民を巻き込んでいくために、どのようなことができるのか。そこに地域の人や商店街の方々が効果的に関わりをもち「おらほのまちなか博物館」をみんなで創っていきたい」という想い。

その「想い」を実現する一つのツールとして「『社会教育による地域の教育力強化プロジェクト』における実証的共同研究」を有効に活用できないものかと考え、１年間取り組んできました。ただし、今年度からの単年度事業で、前例も乏しく、まったくの手探り状態であったことに加え、一教育事務所が事務局となり、２つの市の事業（花巻市は実質４モデル事業）を進めていくには、多大な労力と時間が必要であったことから、取り組んでいくなかでは、継続して進めていくことに、不安を感じた日々もありました。

１年取り組んで「想い」が「形」になったかと問われると、まだまだ発展途上ではあるものの、間違いなく「一歩」を踏み出すことができたと実感しています。これも本実証的共同研究にご支援いただいた講師の方々、花巻・北上両市をはじめ関係機関・団体、ＮＰＯの皆様方、国や県の社会教育関係者の皆様方、そして何より、この事業に直接的・間接的に関わってもらった、両市民の皆様方のおかげさまと感謝しております。

できれば、この「一歩」が、次の「確かな歩み」そして「形」なるよう、関係の皆様にご支援・ご協力を今まで以上にお願いするとともに、今後両市並びに本県において社会教育を基盤とした生涯学習がこれまで以上に活性化することを願っております。

岩手県社会教育推進協議会事務局

平成 22 年度　文部科学省委託事業
「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」
　における実証的共同研究　報告書

発　行　平成 23 年 3 月
発行者　岩手県社会教育推進協議会
　　（事務局　中部教育事務所内）
印刷者　川嶋印刷株式会社

北上まちなか博物館
まち博1号館オープン
記念シンポジウム
第1部
「建築と景観から見たまちづくり」
第2部
「住民のまちづくりへの関わり」
1月30日
参加無料

モデルプログラム発表会を
開催します！！

花巻中央地区ジオラマ製作
並みウォッチング
鍛冶町 桜木町 南川原町

1. 地元をみつめる
地元学～成島の歴史講座
この年度のキーワード
☆ 地域のあるある探検隊
☆ 先生はご近所さん
知り合いは チェック！！
平成19年度
平成20年度
平成21年度

『大迫あねっこ今昔物語』
昔の写真 ☆ 着物モデルさん 募集
懐かしい昔の写真募集！
昔の・今の・そして未来の・・・
あねっこ着物モデルさん募集！